郡家町文化財報告書 17

鳥取県八頭郡郡家町

郡家町内遺跡発掘調査概要報告書

福本70・71号墳
郡家澤田山遺跡
久能寺御建山遺跡

1995・3

郡家町教育委員会

鳥取県八頭郡郡家町

郡家町内遺跡
発掘調査概要報告書

福本70・71号墳
郡家澤田山遺跡
久能寺御建山遺跡

1995・3

郡家町教育委員会

序　　文

この発掘調査概要報告書は、平成６年度の国庫補助事業として実施した本町福本地内及び郡家地内並びに久能寺地内の調査記録です。

郡家町内には数多くの遺跡が存在しておりますが、近年、各種開発関連事業の増加とともに発掘調査は漸増の状況にあります。埋蔵文化財は貴重な歴史資料として、いろいろな情報を提供するばかりでなく、各種、生活の知恵をも現代人に与えてくれるものがあります。今日、開発と文化財の共存は地域文化の発展にとって、年をおって重要な課題ともなっています。郡家町教育委員会では、このような認識にもとづき、関係各期間との協議を重ね、また地元町民のご理解をいただきながら、地域の発展と文化財の共存を図るよう、文化財保護行政を進めているところであります。

今回の発掘調査も関係各位のご協力によって、無事所期の目的をはたしました。厚くお礼を申し上げる次第でございます。

なお、ささやかな冊子ではありますが、本書が町民の郷土研究の一助として活用され、埋蔵文化財の保護意識の高揚に役立てていただければ幸です。

平成７年３月

郡家町教育委員会

教育長　北　村　一　利

例　　言

1．本書は、平成６年度に、郡家町教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。

2．発掘調査を実施した遺跡は、福本70・71号墳は郡家町福本字日焼平、郡家町澤田山遺跡は同町郡家字澤田山ほか、久能寺御建山遺跡は同町久能寺字御建山ほかに所在する。

3．本書に用いた方位は、調査地位置図は真北を示し、他は全て磁北である。

4．本書では、トレンチの略記号としてＴを用いた。

5．発掘調査によって作成された記録類および出土遺物は、郡家町教育委員会に保管されている。

6．本書の執筆・編集は調査参加者の協力を得て、主に上田昌彦が行なった。

7．発掘調査の実施および本書の作成にあたっては多くの方々からの指導・助言ならびに協力をいただいた。特に中野知照氏には、調査全般にわたって終始教示と協力をいただいた。記して深謝いたします。

8．発掘調査の体制は、下記のとおりである。

発掘調査主体	郡家町教育委員会　教育長　北村　一利				
調査指導	鳥取県教育委員会				
事務局	郡家町教育委員会社会教育係				
調査顧問	中野　知照				
調査員	上田　昌彦				
作業協力者	清水　好夫	林　　賢	宮本　静夫	新竹　忠三	今嶋　勝雄
	今嶋　芳一	田中　一美	池谷　徳裕	堀　　安子	堀　都賀子
	今嶋巳和子	田村　文子	村上起枝子	木原　美和	

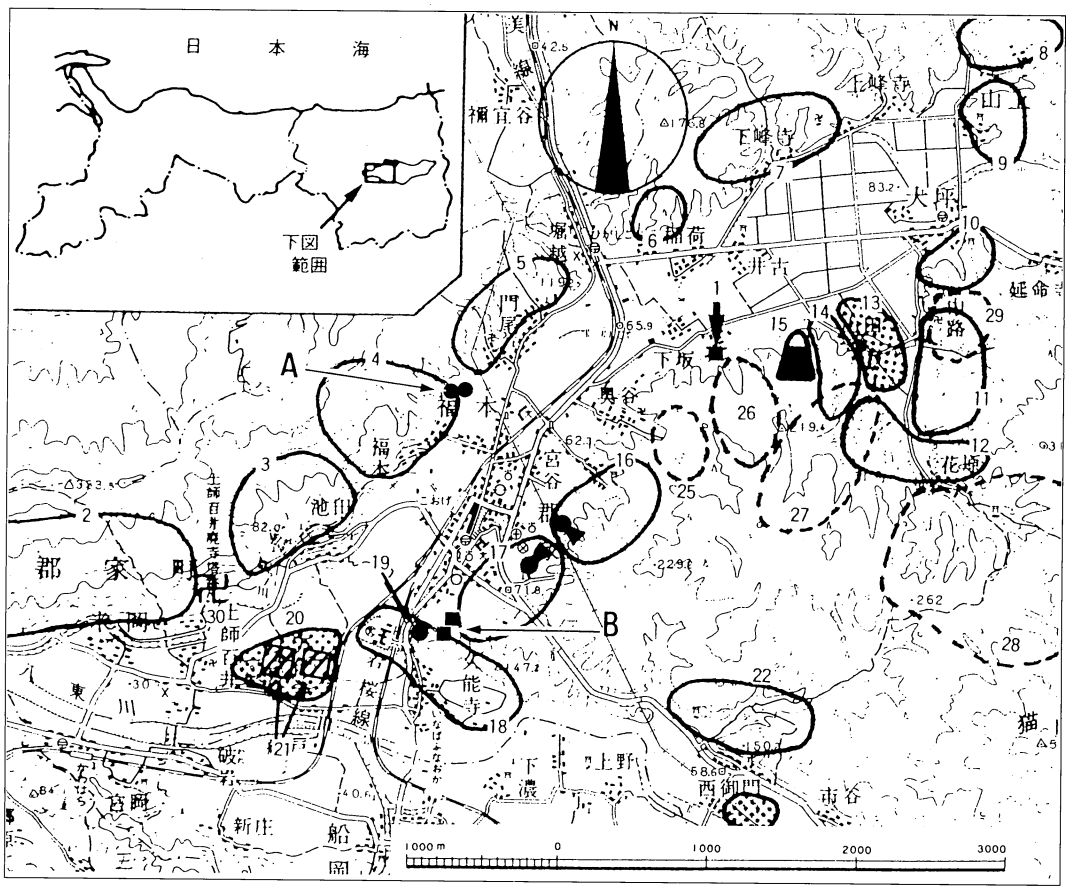
本文目次

1．はじめに …… 1
2．福本70・71号墳の調査 …… 2
3．福本70・71号墳、試掘調査のまとめ …… 8
4．郡家澤田山遺跡・久能寺御建山遺跡の調査 …… 10
5．郡家澤田山遺跡・久能寺御建山遺跡、試掘調査のまとめ …… 26

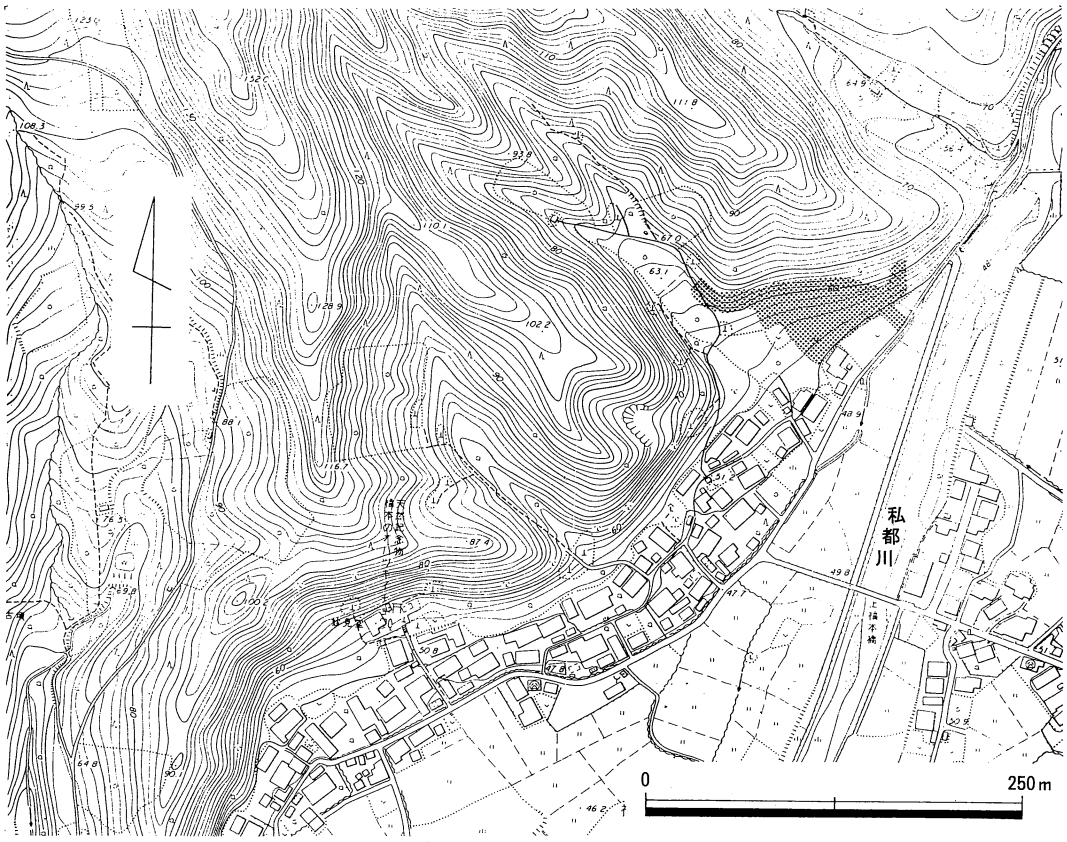
1．はじめに

郡家町は鳥取県東部、八頭郡の北端に位置する。北部は鳥取市と国府町に接し、西部は河原町、南部は船岡町と八東町、東部は若桜町と兵庫県但馬地方に隣接する。町内には二つの河川－私都川・八東川－が流れ、町内西部に広がる国中平野を形成している。私都川は町東端に立地する扇ノ山に源を発して西流し、八東川は若桜町に源をなして南部を西流する。両河川は町内西端で合流し、さらにその下流で鳥取県東部の最大河川である千代川に合流し日本海へ注ぐ。今回調査を行なった福本70・71号墳は私都川下流域右岸の丘陵裾部に位置し、郡家澤田山遺跡及び久能寺御建山遺跡は対岸の丘陵端部に隣接して所在する。郡家町は八頭郡内でも遺跡の密集度の高い地域で、特に私都川流域は古くより遺跡の存在が多く知られている。

今回、調査を実施することとなった福本70・71号墳は、郡家町営による福本集落広場整備事業に伴ったものである。事業計画は、福本集落の東側丘陵裾部に林道の敷設及び広場を整備するもので、平成６年度に実施予定ということであった。同年４月、事業区域内の踏査を行ったところ、２ヶ所で古墳等の遺跡に伴うものと想定される石材の集積地を確認した。また、郡家沢田山遺跡・久能寺



調査地位置図（A：福本70・71号墳、B：郡家澤田山遺跡・久能寺御建山遺跡）



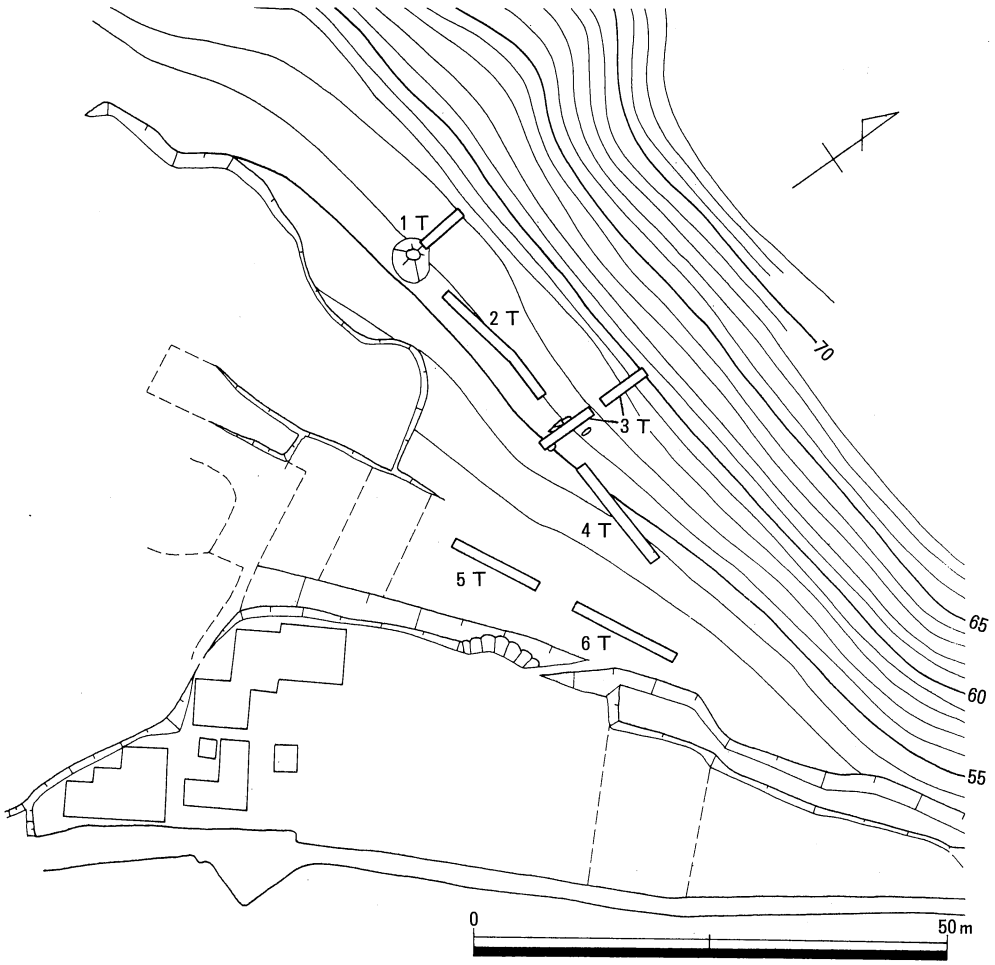
福本70・71号墳工事予定地全体図

御建山遺跡の発掘調査は、当該地区の宅地開発事業予定地内において埋蔵文化財の所在確認があったことによる。御建山地区には、既に古墳１基の存在が知られていたが、開発予定地全体の状況を把握するため、平成６年２月に分布調査を行った。その結果、遺物散布地を数ヶ所確認するに到った。発掘調査は、鳥取県教育委員会の指導を得て、郡家町教育委員会が調査主体となり実施した。福本70・71号墳の試掘調査は、平成６年６月13日より開始し、６本のトレンチを調査した。実測・写真撮影などの作業を経て、同年７月15日までに現地調査を終了した。整理・報告書作成作業は平成７年３月１日より行い、３月20日をもって終了した。郡家沢田山遺跡・久能寺御建山遺跡については、平成６年４月～６月及び平成７年２月～３月に現地調査を行った。整理・報告書作成作業は、平成６年６月～７月及び平成７年３月に行った。

２．福本70・71号墳の調査

今回、試掘調査の対象となった福本70・71号墳は、福本地区と北側に隣接する門尾地区との間に所在する。両古墳は、尾根の南側斜面裾部に位置し標高55ｍ前後に立地する。現況は荒地として放置されているが、以前は畑地として利用されていた。

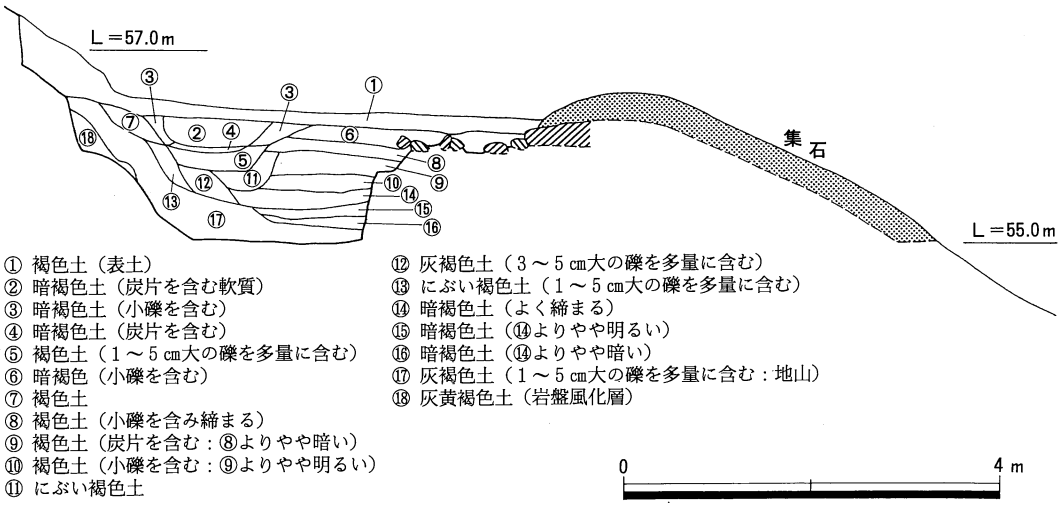
発掘調査に先立ち、調査前の地形観察を行なった結果、調査区の西端では積石塚状の集石部分が



トレンチ配置図

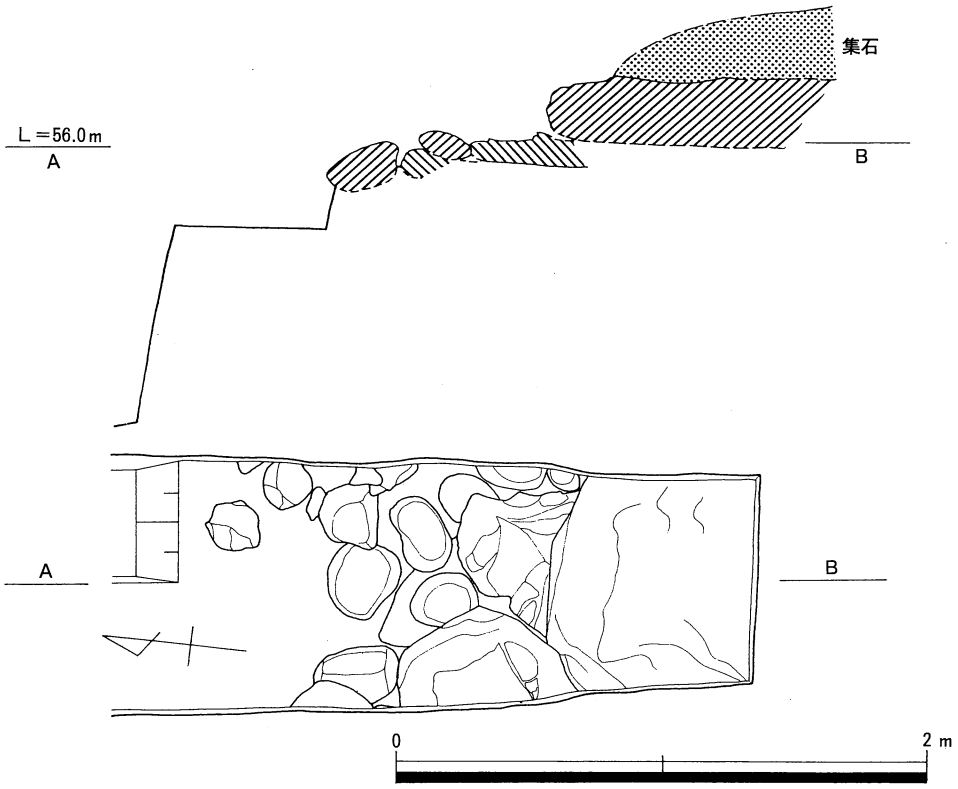
確認された。また中央部の北側では、地表面に石室の側壁と思われる石材が露呈していた。この石材の北側には墳丘状の高まりがみられたが、後世の撹乱・改変等により原形をとどめていないと思われた。調査区の南東部には、東西方向の狭長な平坦面が所在していた。このため、発掘調査は遺構の存在確認に主眼をおき6本のトレンチを設定した。設定したトレンチは以下の通りである。西側の積石塚状の集石部分には1・2トレンチを設定した。中央部の古墳には、墳丘規模確認のため2～4トレンチを設定した。3トレンチでは、石室の遺存状況を把握するため、石材露呈部分から丘陵裾部までを調査範囲とした。南東側の平坦面には、他の遺構の存在を考慮し5・6トレンチを設定した。調査の結果、古墳2基・石列状遺構1を確認した。出土遺物は、須恵器・土師器・中世土器等がみられた。福本古墳群では既に69基の古墳の所在が知られており、今回確認した古墳は中央部のそれを70号墳、西側部分は71号墳と呼称することにした。調査したトレンチについては、平面図・断面図を作成し写真撮影を行った。調査面積は61.2㎡である。

以下、トレンチ調査の概要を略述する。



① 褐色土（表土）
② 暗褐色土（炭片を含む軟質）
③ 暗褐色土（小礫を含む）
④ 暗褐色土（炭片を含む）
⑤ 褐色土（1～5㎝大の礫を多量に含む）
⑥ 暗褐色（小礫を含む）
⑦ 褐色土
⑧ 褐色土（小礫を含み締まる）
⑨ 褐色土（炭片を含む：⑧よりやや暗い）
⑩ 褐色土（小礫を含む：⑨よりやや明るい）
⑪ にぶい褐色土
⑫ 灰褐色土（3～5㎝大の礫を多量に含む）
⑬ にぶい褐色土（1～5㎝大の礫を多量に含む）
⑭ 暗褐色土（よく締まる）
⑮ 暗褐色土（⑭よりやや明るい）
⑯ 暗褐色土（⑭よりやや暗い）
⑰ 灰褐色土（1～5㎝大の礫を多量に含む：地山）
⑱ 灰黄褐色土（岩盤風化層）

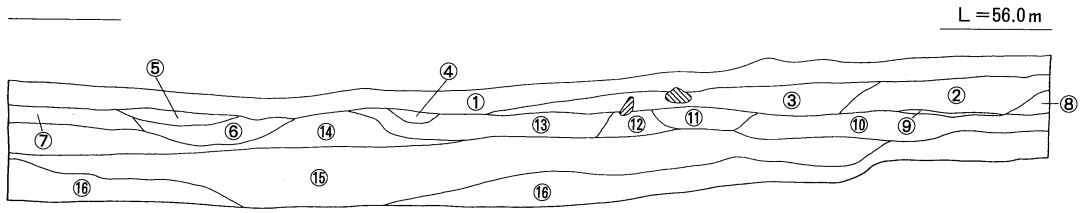
1 トレンチ断面図



1 トレンチ実測図

1トレンチ

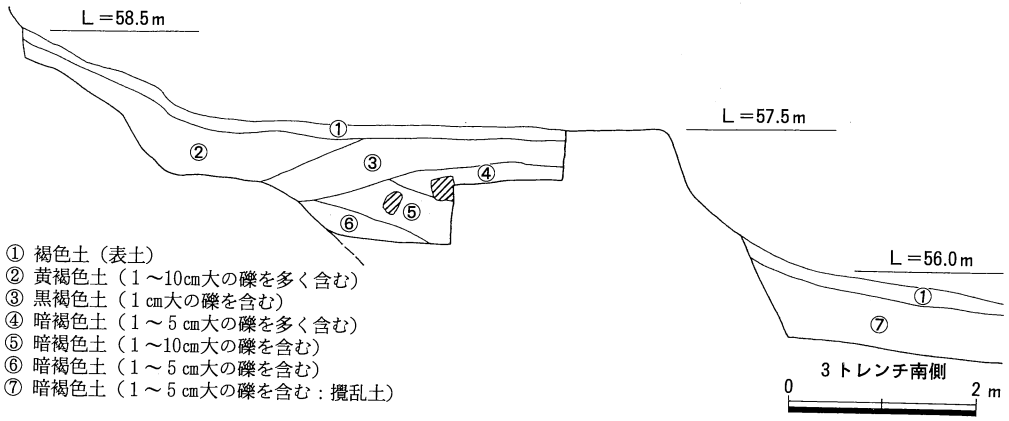
調査区西端に位置し、積石塚状の集石背後に設定したトレンチ。トレンチ内より、集石端部の直下より板状の石板（長さ0.8m、幅1m）を検出し、厚さは0.25mを測る。この石板の北側において厚さ0.1mの板状の石材を二段分検出した。これらの石材は、持ち送り気味に構築されていた。また、これらの板状の石材の背後には、裏込め石と思われる0.1～0.3m大の河原石も検出された。



① 褐色土（表土）
② 暗褐色土（1～5㎝大の礫を含む）
③ にぶい褐色土（1～5㎝大の礫を含む）
④ 暗褐色軟質土
⑤ 暗褐色土（小礫を含む）
⑥ 褐色土（1～5㎝大の礫を多量に含む）
⑦ 褐色土
⑧ 暗褐色土（1～5㎝大の礫を含む）
⑨ 暗褐色粘質土
⑩ 暗褐色土（1～5㎝大の礫を含む：⑧よりやや暗い）
⑪ 暗褐色軟質土（10～30㎝大の河原石混入）
⑫ 暗褐色土（⑩層と同一か？）
⑬ 暗褐色土（1～10㎝大の礫を多量に含む）
⑭ 褐色土（1～5㎝の礫を少し含む）
⑮ 暗褐色土（1～3㎝の礫を含む）
⑯ 灰褐色土（1～10㎝大の礫を多量に含む：地山）

0　4 m

2トレンチ断面図



① 褐色土（表土）
② 黄褐色土（1～10㎝大の礫を多く含む）
③ 黒褐色土（1㎝大の礫を含む）
④ 暗褐色土（1～5㎝大の礫を多く含む）
⑤ 暗褐色土（1～10㎝大の礫を含む）
⑥ 暗褐色土（1～5㎝大の礫を含む）
⑦ 暗褐色土（1～5㎝大の礫を含む：攪乱土）

3トレンチ北側断面図

トレンチの北側部分では、幅1.6m、深さ0.5mの溝状の落ち込みが確認されており、古墳の周溝部分と考えられる。トレンチ内より遺物の出土はみられなかった。

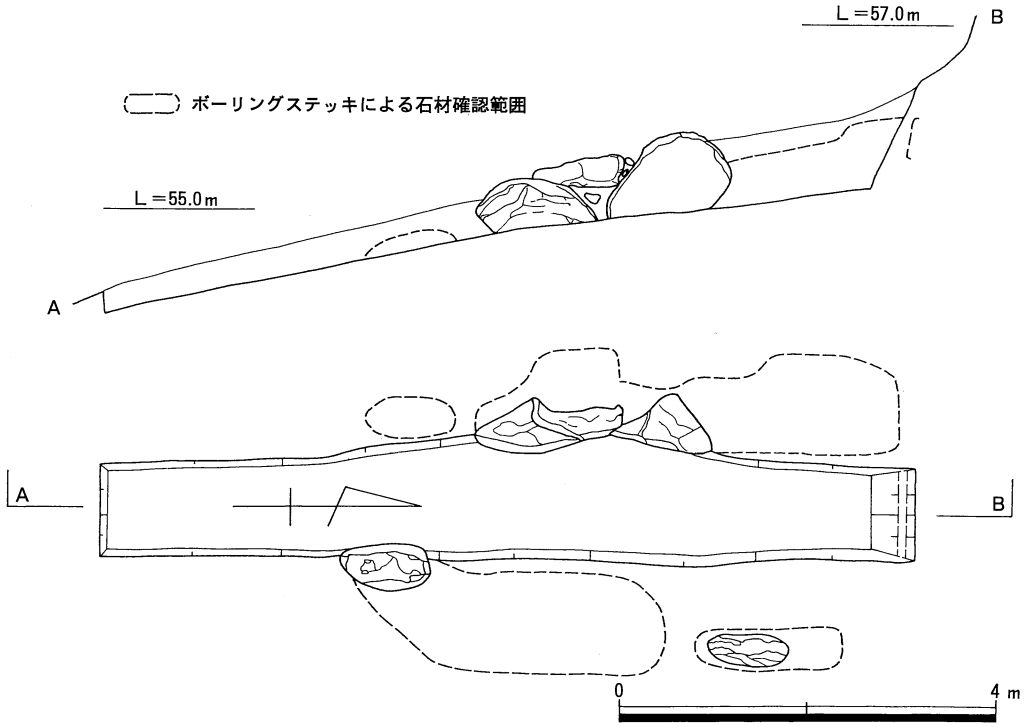
2トレンチ

調査区中央部の北寄りに位置する古墳状の高まり部分と、積石塚状の集石との間に設定したトレンチ。トレンチの西側部分において、1トレンチで確認した周溝に連続すると考えられる溝状の落ち込み（幅2.3m、深さ0.5m）を検出した。周溝埋土中より土師器椀の出土をみた。トレンチの東側部分では、調査区中央部の古墳に付随すると思われる周溝状の落ち込み（幅1.5m、深さ0.3m）を確認した。この周溝の埋土からは、須恵器高台付杯他を出土している。また、2トレンチで確認した周溝が掘り込まれた基盤層より、土師器・須恵器・埴輪片が出土している。

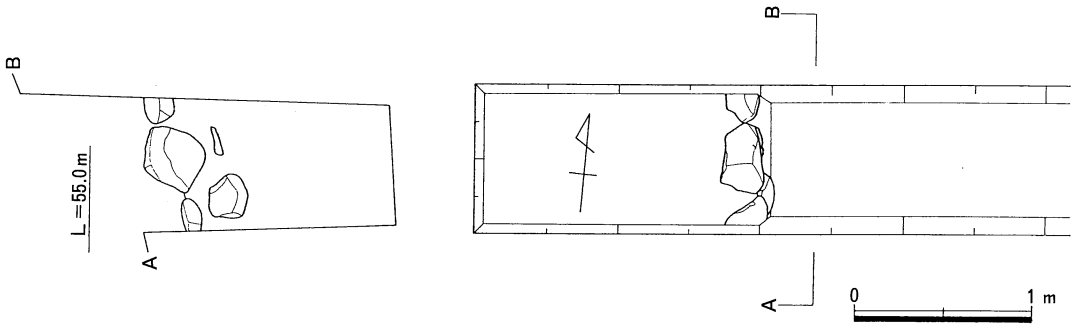
トレンチ西側部分で確認した周溝を持つ古墳を70号墳とし、西側部分でのそれを71号墳と呼称することとした。

3トレンチ

調査区中央部、北寄りの70号墳北側墳端部より墳丘中央部にかけて設定したトレンチ。墳丘北側のトレンチにおいては、幅2.6m、深さ0.5mを測る周溝に該当すると思われる溝状の落ち込みが確認できた。周溝は、丘陵斜面を掘削し、南側は墳丘盛土より掘り込まれている。周溝埋土及び墳丘



3 トレンチ南側実測図



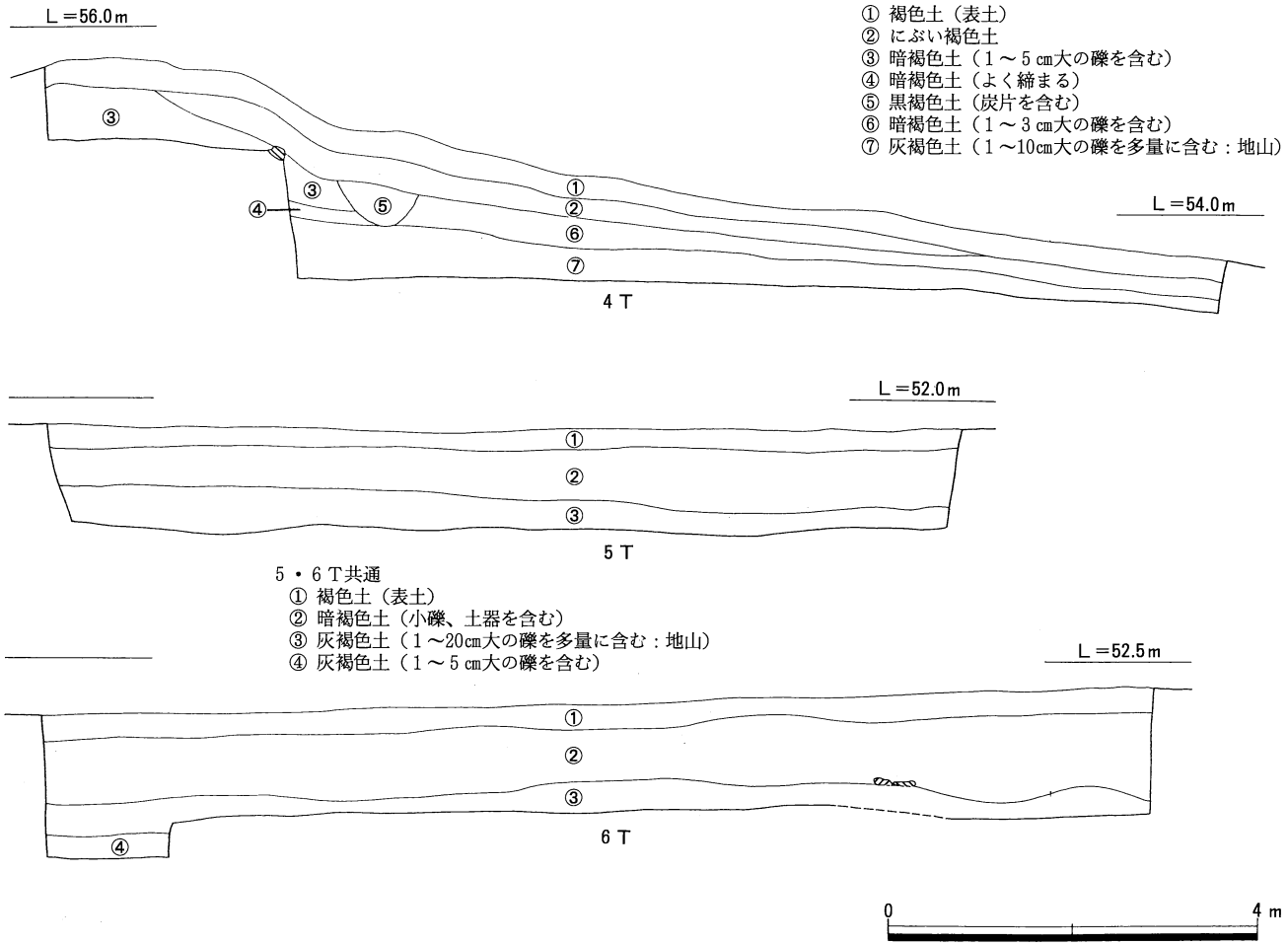
4 トレンチ石列実測図

盛土中より若干の土師器の出土をみた。

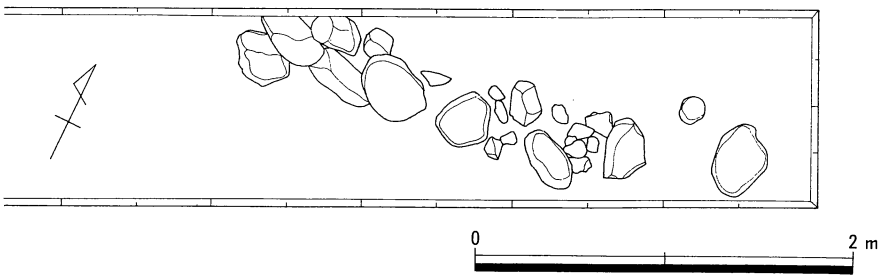
墳丘中央部分では、石室の側壁の一部とみられる石材が露呈していた。トレンチの掘り下げと、周辺部の貫入テストの結果、石材露呈部分を中心に石材が南北に存在することが知られた。これらの石材は、横穴式石室の側壁を構築したものと判断された。石室の埋土中より須恵器杯・甕等の出土をみた。

4 トレンチ

70号墳の東側に設定したトレンチ。トレンチ内より、一部二段に構築された列石と溝状の落ち込みを検出した。列石は、その主軸をほぼ南北に取り、石室の主軸方位に平行している。溝状の落ち


L＝56.0m
L＝54.0m
L＝52.0m
L＝52.5m
① 褐色土（表土）
② にぶい褐色土
③ 暗褐色土（1～5㎝大の礫を含む）
④ 暗褐色土（よく締まる）
⑤ 黒褐色土（炭片を含む）
⑥ 暗褐色土（1～3㎝大の礫を含む）
⑦ 灰褐色土（1～10㎝大の礫を多量に含む：地山）
4T
5T
5・6T共通
① 褐色土（表土）
② 暗褐色土（小礫、土器を含む）
③ 灰褐色土（1～20㎝大の礫を多量に含む：地山）
④ 灰褐色土（1～5㎝大の礫を含む）
6T
0
4m

4 ～ 6 トレンチ断面図



6トレンチ石列実測図

込みは、幅0.8m、深さ0.4mを測り、70号墳の周溝と考えられる。トレンチ内より溝状遺溝の埋土中及び墳丘盛土より須恵器・土師器の出土をみた。

'5・6トレンチ

調査区の南東部の平坦地に設定したトレンチ。トレンチ内の土層堆積状態は、表土・遺物包含層・地山の3層からなる。遺物包含層からは、土師器・須恵器・須恵質土器・瓦質土器等が混在していた。調査区の最も東に位置する6トレンチ内では、地山検出面の東側において石列状の遺溝を検出した。この石列は、0.1～0.4m大の扁平な河原石を幅 0.5m、長さ3m分を検出し、トレンチの東端部で北へ屈曲させる。石列の主軸は東西方位をとる。石列は、トレンチ外に続くものと思われるが、全体像は把握していない。なお、この石列に伴う出土遺物は確認されなかった。

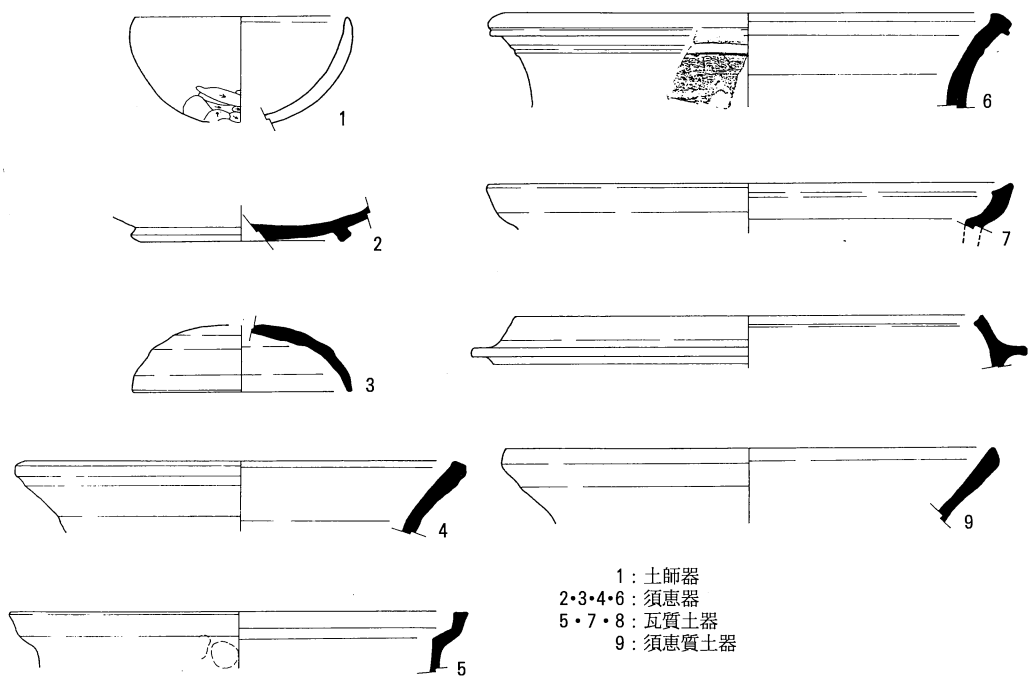
3．福本70・71号墳、試掘調査のまとめ

今回の試掘調査の結果、古墳2（福本70・71号墳）、石列状遺構1が確認された。

福本70号墳は、墳丘中央部から東側にかけて後世の撹乱・改変を受けていたが、検出した遺構より径16m前後の円墳もしくは方墳と想定される。主体部の横穴式石室は既に天井部を失っているものの、3トレンチにおいて側壁を検出した。また、奥壁の一部を確認し、石室の主軸方向は南北を示し南側に開口することが知られた。石室の確認長は約6mを測り、側壁の遺存状況より右片袖式と推定された。

福本71号墳は、当初の観察では積石塚状の集石遺構を呈し、中世墳墓と思われた。しかし、調査の結果、直径12m程度の横穴式石室を内部主体とする古墳であることが判明した。墳丘は後世の改変を受けており、その大半を失っているが、北側では版築状の盛土が確認された。また、石室の天井石の一部を確認し、検出状態はほぼ原位置を保っていることから、南に開口するものと思われる。しかし、墳丘の遺存状態からみて、石室の一部と羨道部は既に失っているものと考えられる。

福本70・71号墳で出土した遺物は、須恵器・土師器の破片であったため図化できたのは僅かである。70号墳では、須恵器蓋杯・高台付杯・甕等がみられ、概ね7世紀前半代の所産と考えられる。



出土遺物実測図

71号墳では、周溝より6世紀末～7世紀初頭に比定し得る土師器椀が出土した。このことから、福本70・71号墳は古墳時代後期後葉より終末期にかけて造営されたものと思われる。

また調査区南東側の平坦地では、石列状遺構を検出した。遺構は、地山面に築かれていたが、遺物の伴出はみられなかった。しかし、遺構を覆った遺物包含層の出土遺物は、古墳時代後期より中世にかけての土器片がみられる。このことから、この石列状遺構は古墳時代後期以降に構築されたものと考えておきたい。

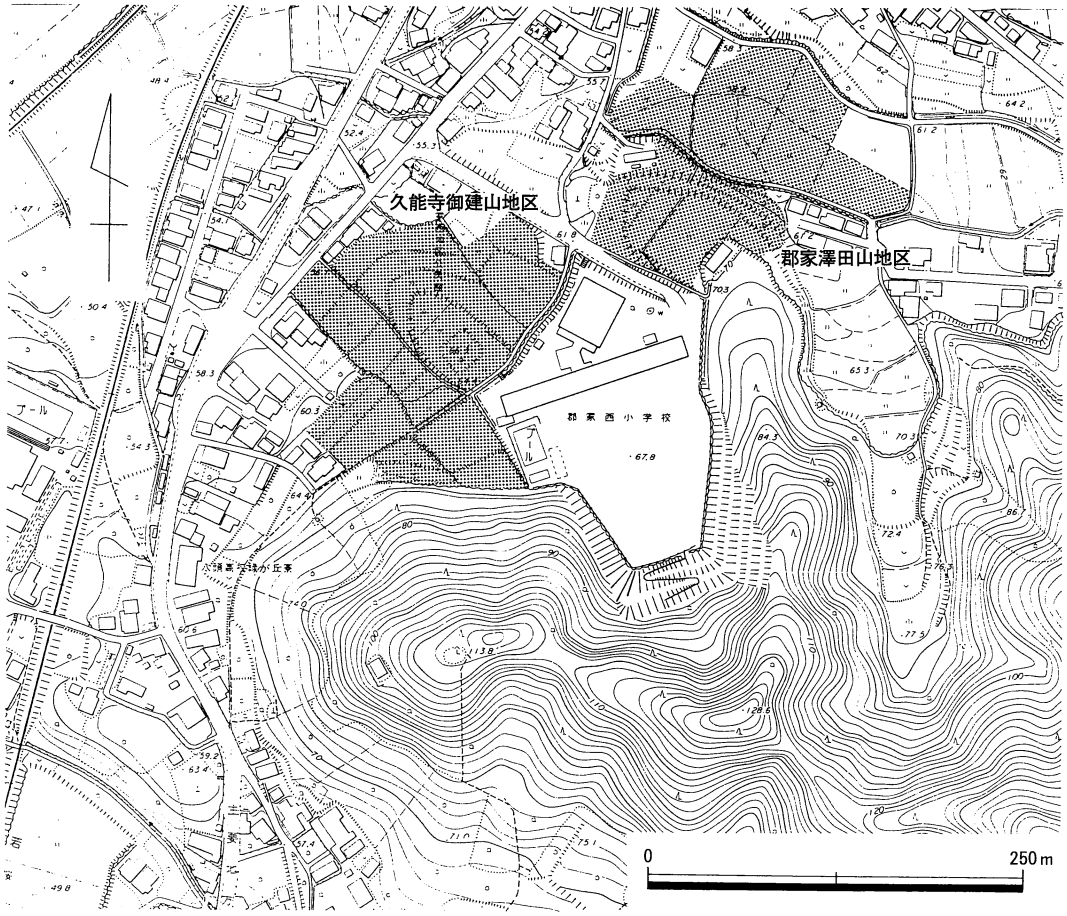
今回の調査では以上の所見が得られた。今後の開発計画における調査資料として十分な結果が得られたものといえよう。

4．郡家澤田山遺跡、久能寺御建山遺跡の調査

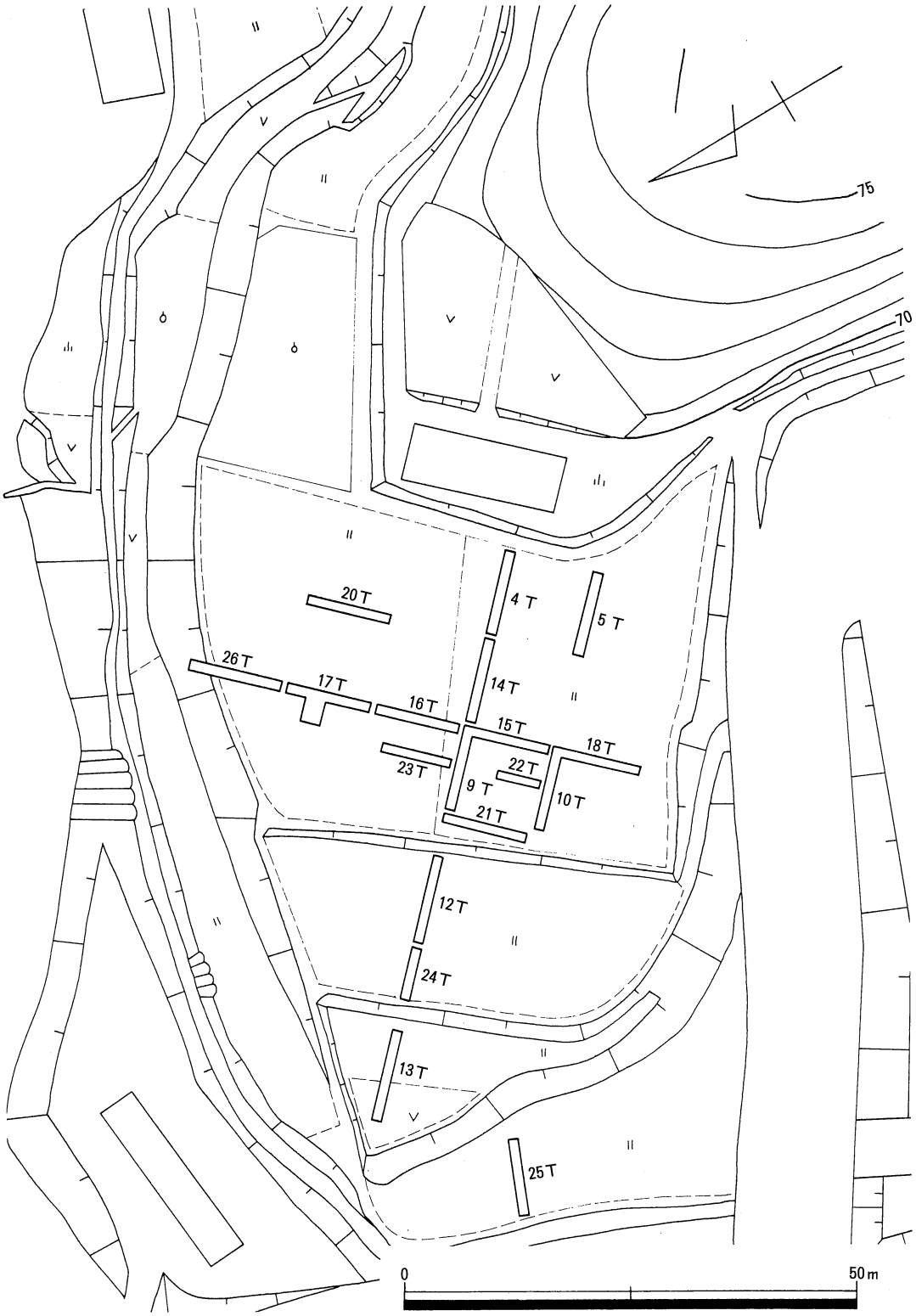
今回の試掘調査は、開発計画の調整資料を得るため、遺構の存在確認を主たる目的とした。調査地は、郡家澤田山地内をＡ地区、久能寺御建山地内をＢ地区とした。Ａ地区では、当初１～14トレンチ、Ｂ地区に１～16トレンチを計画した。しかし、調査の進行状況をみてトレンチの追加を行った結果、Ａ地区で18本、Ｂ地区で17本の合計35本となり、発掘総面積は 352.5である。

調査したトレンチは、Ａ地区においては階段状の水田面各段に設定した。発掘を実施したトレンチは上段より４・５・９・10・14～18・20～23・26、12・24、13、25トレンチである。Ｂ地区では、周知の古墳（久能寺27号墳）に１～４トレンチ、これに続く階段状の水田面に順次５、６、７、８・15トレンチを設定した。また西側の谷部の水田面各段に９～14トレンチ、さらに調査地南西端の丘陵裾部の水田面に16・17トレンチを設定した。

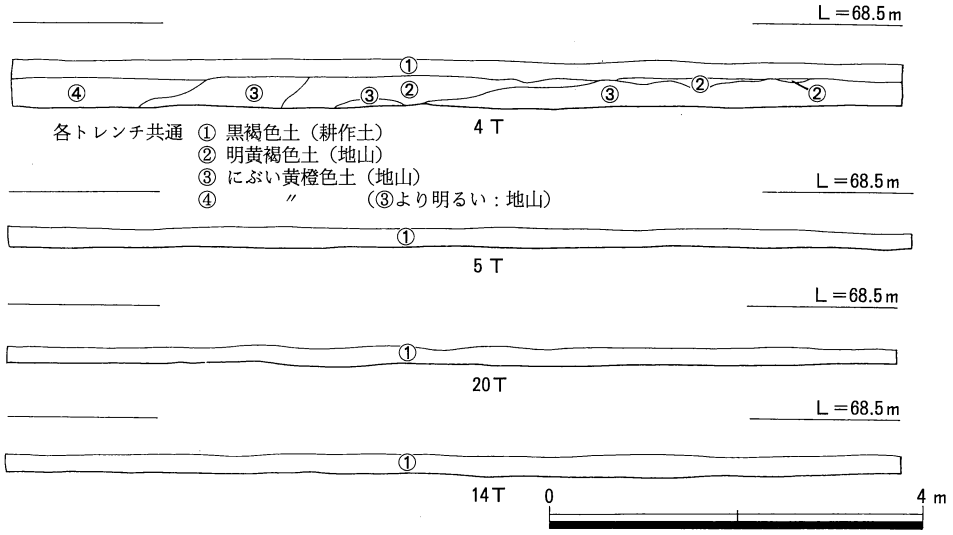
調査の結果、Ａ地区では、古墳の周溝１、弥生時代後期の溝状遺構１を検出した。出土遺物として埴輪・須恵器・土師器・弥生土器等を検出した。またＢ地区においては、久能寺27号墳の主体部



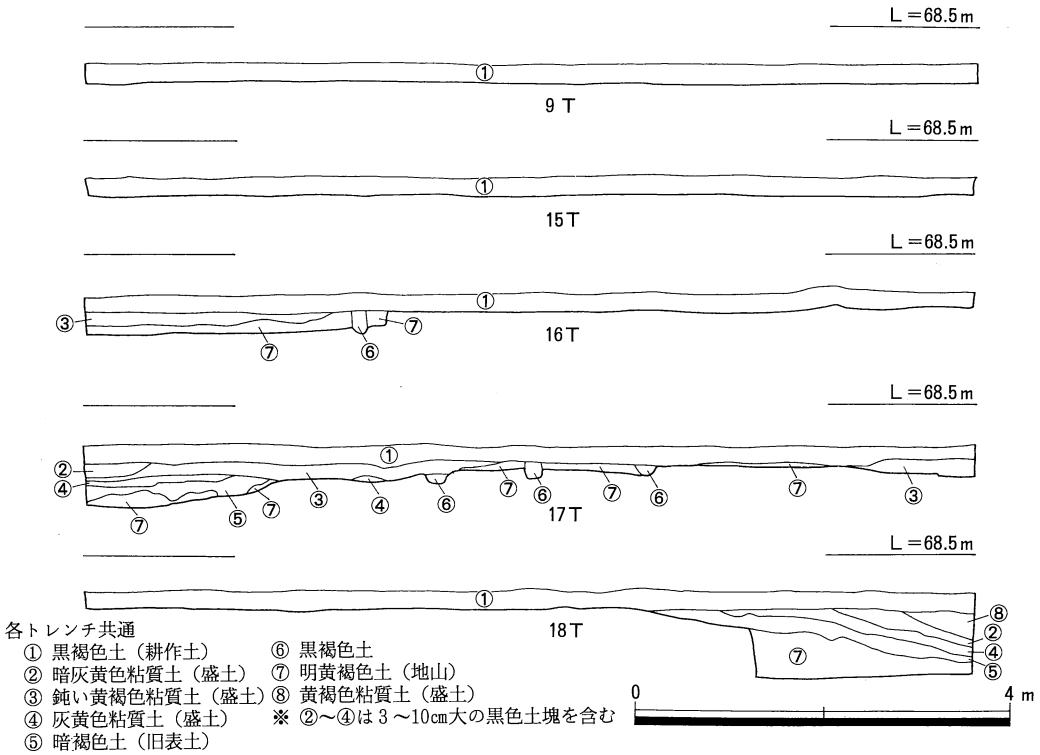
開発予定地全体図


75
70
20T
4T
5T
26T
17T
16T
14T
15T
18T
23T
22T
9T
10T
21T
12T
24T
13T
25T
0
50m

A地区トレンチ配置図



4・5・20・14トレンチ断面図



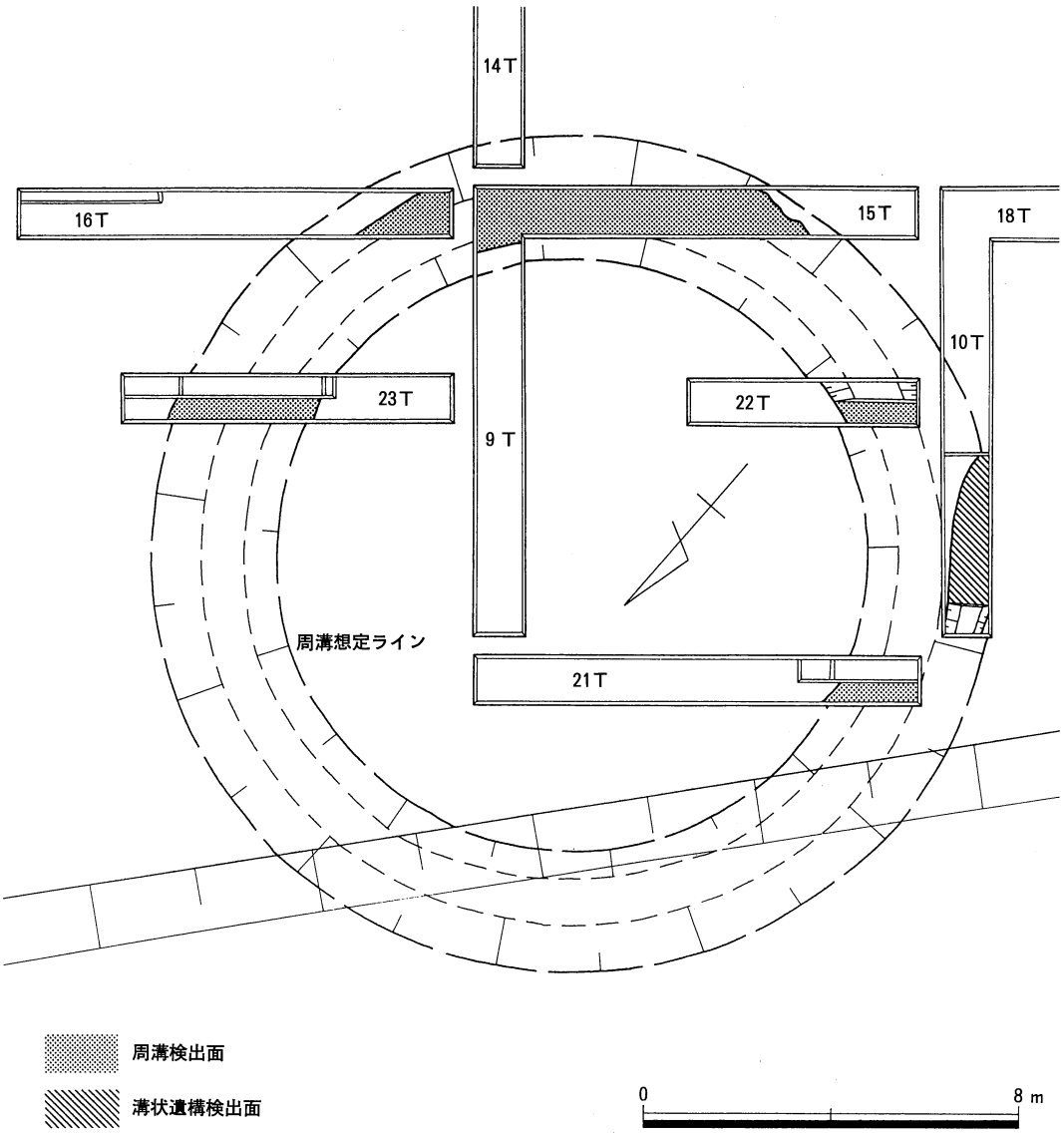
9・15・16・17・18トレンチ断面図

の一部と溝状遺構1を検出した。以下にトレンチ調査の結果を概述する。

〈A地区の調査〉

4・5・20トレンチ

調査区上段の水田面に設定したトレンチ。表土下20cmで地山面に達する。削平により旧表土はみ



周溝及溝状遺構検出状態図

られず、遺構・遺物の検出もみられなかった。

9トレンチ

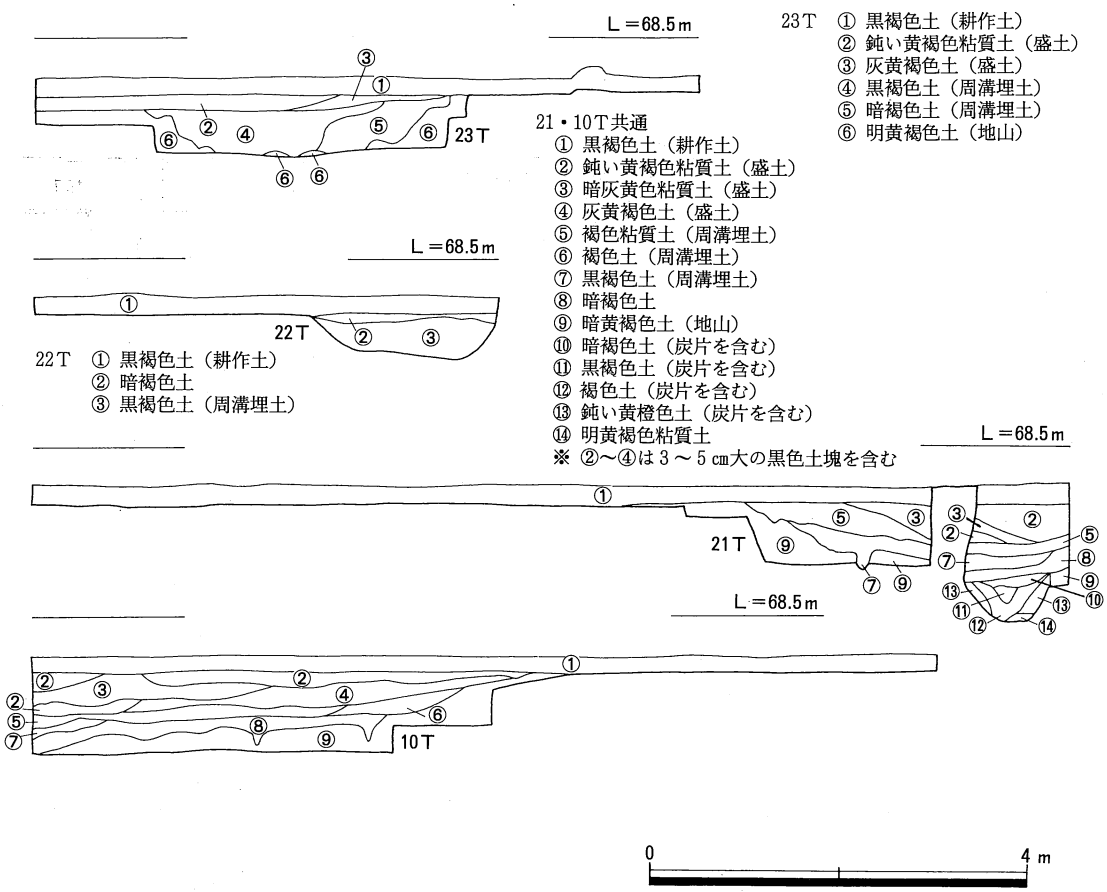
上段面に設定したトレンチ。表土下20cmで地山面に達するが、トレンチ東側において黒褐色土面を検出した。この黒褐色土面の範囲確認のため、トレンチ東側に14トレンチ、南側に15トレンチ、北側に16トレンチを設定した。表土中より埴輪片の出土をみた。

14トレンチ

表土下20cmで地山面に達する。黒褐色土面は確認できず、遺構・遺物は伴わなかった。

15トレンチ

表土下20cmで黒褐色土面を検出した。その範囲は、長さ約6mを測り南端は不整形な弧状を呈し



23・22・21・10トレンチ断面図

ている。表土中より土師器片の出土をみた。トレンチは9トレンチ東端より直交して位置する。

16トレンチ

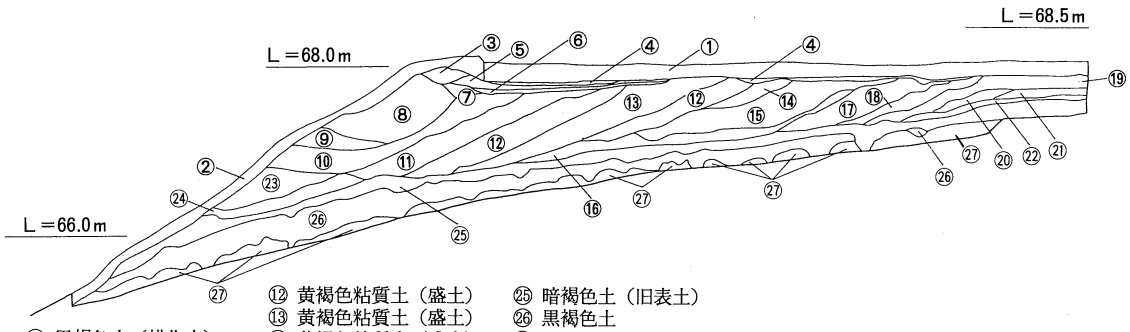
表土下20㎝で黒褐色土面を検出した。トレンチ南側より北側へ1mの所で弧状に終る。この黒褐色土面は、15・9・16トレンチにわたり溝状に弧を描くことから、古墳の周溝と推定される。この周溝の範囲確認のため22・23トレンチを追加した。表土中より土師器・須恵器片の出土をみた。

17トレンチ

丘陵北側に位置する。表土下20㎝で、水田造成時の盛土層を検出した。盛土中より埴輪片多数が出土した。また、若干の須恵器・土師器・弥生土器等の土器片も含む。盛土層下で旧表土を検出したが、遺構・遺物はみられなかった。トレンチ中央で凹地が確認されたため、隣接して拡張区を設けたが自然地形に依るものであった。

18トレンチ

丘陵南側に位置する。トレンチの北半は表土下20㎝で地山面に達する。南半は表土、盛土、旧表土という堆積状況を示す。盛土中より土師器の出土をみた。



① 黒褐色土（耕作土）
② 暗褐色土（表土）
③ 鈍い黄橙色土（盛土）
④ 暗褐色粘質土（盛土）
⑤ 浅黄橙色粘質土（盛土）
⑥ 黒色土（盛土）
⑦ 明黄褐色土（盛土）
⑧ 黄橙色粘質土（盛土）
⑨ 灰褐色粘質土（盛土）
⑩ 暗黄褐色粘質土（盛土）
⑪ 暗黄褐色粘質土（盛土）
⑫ 黄褐色粘質土（盛土）
⑬ 黄褐色粘質土（盛土）
⑭ 黄褐色粘質土（盛土）
⑮ 暗灰黄色粘質土（盛土）
⑯ 明黄褐色粘質土（盛土）
⑰ 暗灰黄色粘質土（盛土）
⑱ 黄橙色粘質土（盛土）
⑲ 暗灰黄色粘質土（盛土）
⑳ 黄褐色粘質土（盛土）
㉑ 鈍い黄褐色粘質土（盛土）
㉒ 灰黄褐色粘質土（盛土）
㉓ 灰褐色粘質土（盛土）
㉔ 明黄褐色粘質土（盛土）
㉕ 暗褐色土（旧表土）
㉖ 黒褐色土
㉗ 明黄褐色土（地山）
※ ③～㉔は3～10cm大の黒色土塊を含む

26トレンチ断面図

22トレンチ

15トレンチの西側に位置する。トレンチ南側において表土下20cmで暗褐色土面を検出した。一部掘り下げた所、周溝の一部であることが判明した。周溝斜面はゆるやかで深さ50cmを測り底面は平坦である。周溝の南側斜面はトレンチ外に伸びる。埋土中より土師器片の出土をみた。

23トレンチ

16トレンチの西側に位置する。表土下20cmで盛土層に達するが、この盛土層下で周溝を検出した。一部掘り下げ、周溝断面の観察を行った。周溝埋土より土師器片・埴輪片の出土をみた。

21トレンチ

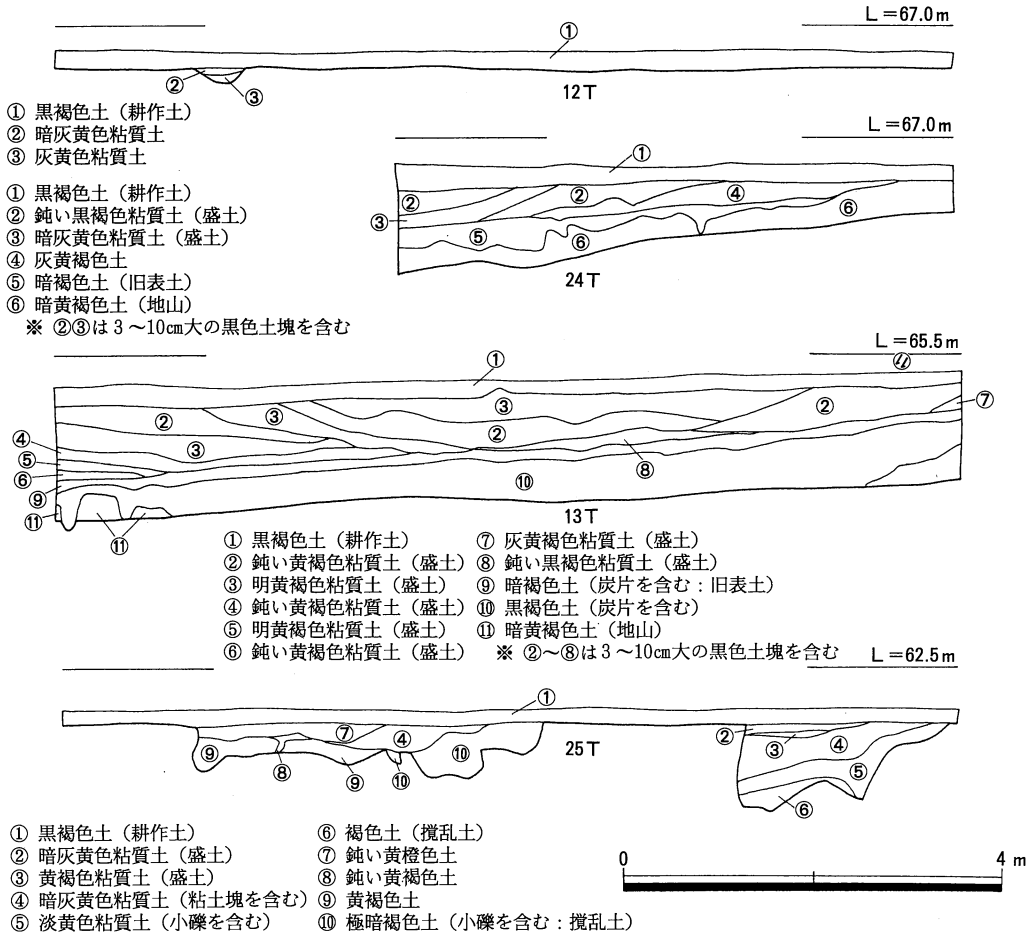
上段面の西側に位置する。トレンチ南側で周溝の一部を検出した。一部掘り下げ、埋土中より石器片・土師器片の出土をみた。

10トレンチ

18トレンチ北側より西に屈曲して設定した。トレンチ西側において、盛土層下で周溝の一部を検出した。この周溝の下層部分において、上層の溝の弧とは異にする溝状遺構が確認された。この溝状遺構の埋土中より弥生土器・甕口縁部片が出土しており、一部掘り下げたところ地山面に掘り込まれた溝であることが判明した。溝は幅90cm、深さ50cmを測り、弧状を呈し南北に伸びることが知られた。溝状遺構の断面は「U」字状を呈し、2段掘りであったことが確認できた。

26トレンチ

上段面中央部の北端に位置する。丘陵北側の斜面に当り、厚い盛土層が形成されていた。盛土中より多数の埴輪片がみられ、若干の弥生土器に混じって板状の石材（厚さ5cm、一辺5～20cm）が20点程出土した。埴輪片は磨滅が顕著であるが、円筒埴輪・朝顔形埴輪・形象埴輪等の破片であっ



12・24・13・25トレンチ断面図

た。出土した石材は、石棺材と想定される。旧表土中より須恵器・土師器・弥生土器の出土をみた。

12トレンチ

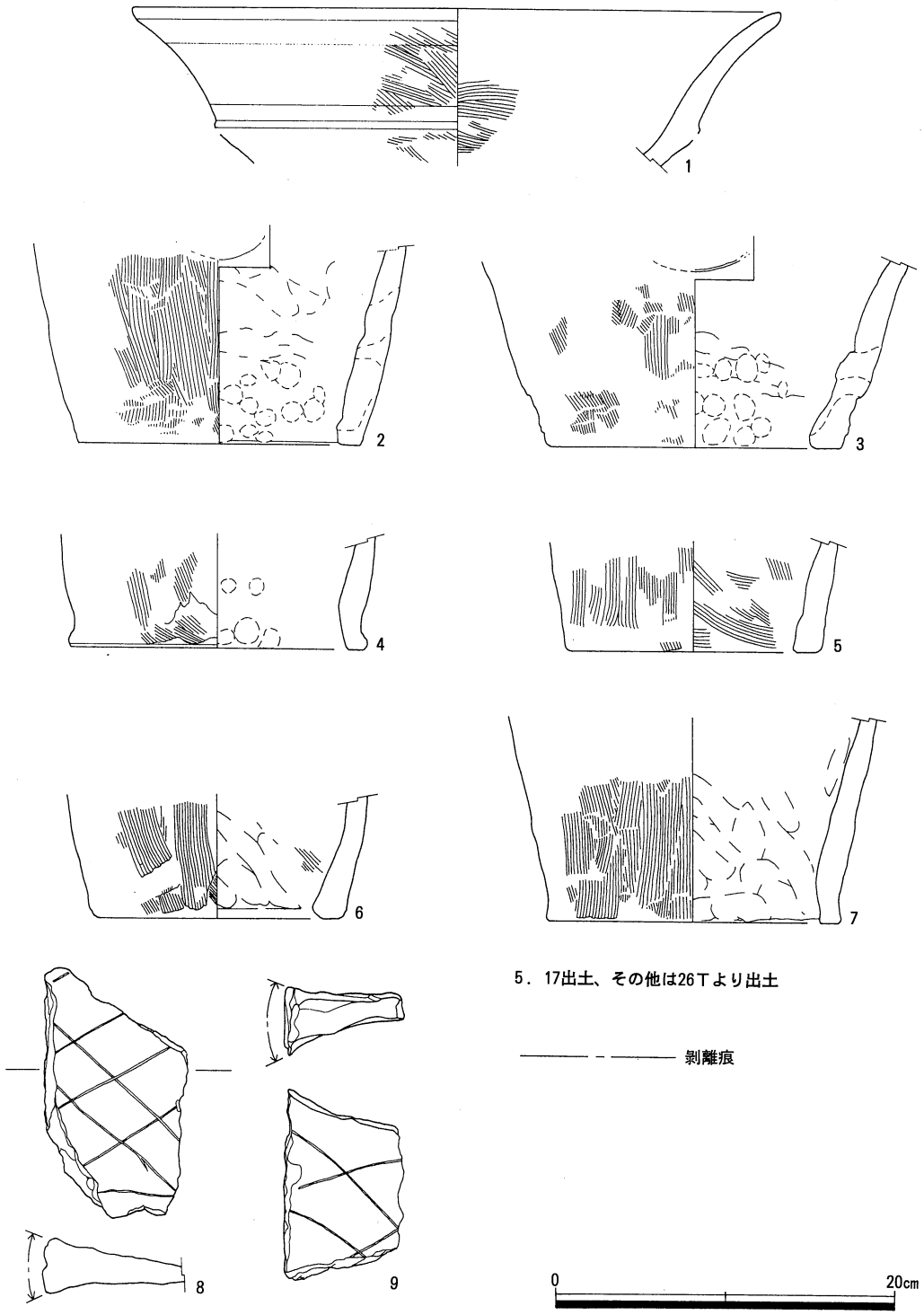
2段目に設定したトレンチ。表土下20cmで地山面に達する。トレンチ内より土坑を検出したが、埋土は盛土であった。土坑上面より須恵器片の出土をみたが、土坑は撹乱穴と考えられる。

24トレンチ

12トレンチの西側に位置する。表土下20cmで盛土層に達し、その下層で旧表土を検出した。トレンチ内より、遺構・遺物は検出されなかった。

13トレンチ

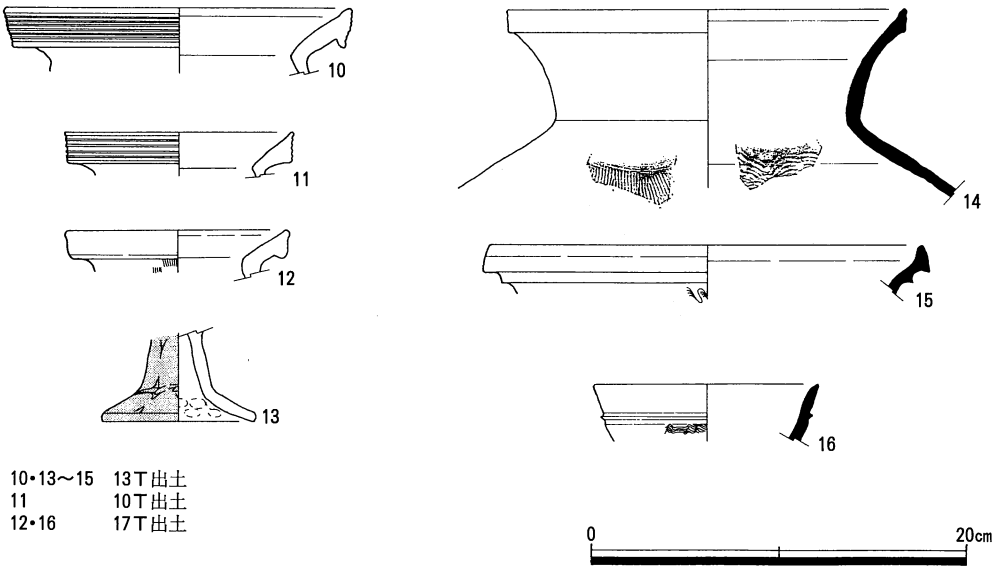
3段目に設定したトレンチ。表土下20cmで厚く堆積した盛土層を検出した。盛土中より多量の須恵器・土師器片の出土をみた。盛土層の下には旧表土層が確認でき、須恵器・土師器・弥生土器片が出土したが、遺構の検出には到らなかった。



5．17出土、その他は26Tより出土

剥離痕

A地区出土遺物（埴輪）実測図



10・13～15　13T出土
11　10T出土
12・16　17T出土

A地区出土遺物実測図

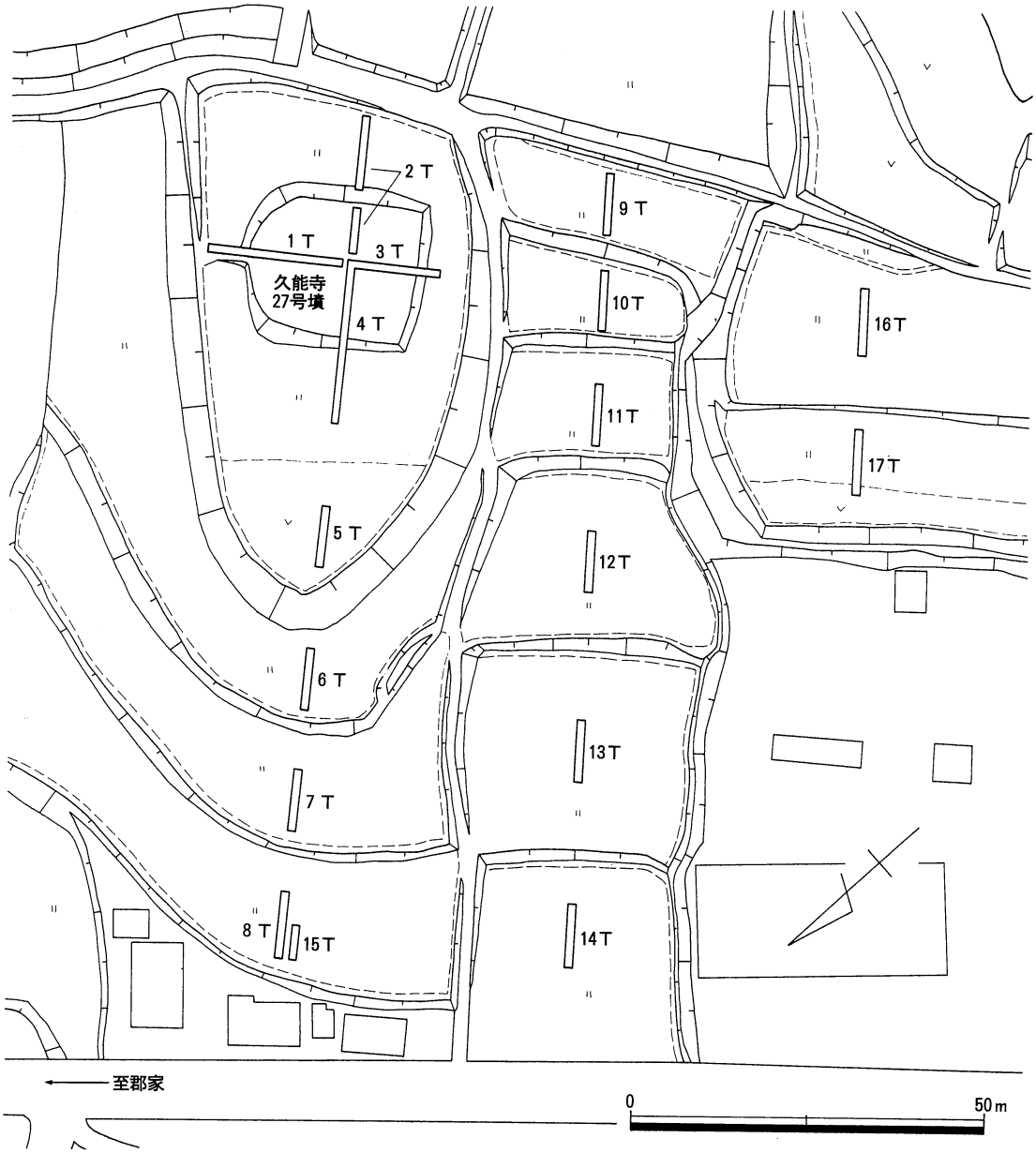
25トレンチ

A地区の最も西端に位置する。表土下20cmで地山面に達し、地山面に掘り込まれた方形状・楕円形の土坑を確認したが、これらは何れも後世の撹乱穴であった。

〈B地区の調査〉

1～4トレンチ

久能寺27号墳の墳頂部を中心に設定したトレンチ。トレンチは、北東部より右回りに1～4トレンチとした。調査では、墳丘規模と主体部の有無についての確認を目的とした。調査の結果、本墳は外観上一辺約20mの方墳状を呈しているが、墳端部は後世の開墾等により削り取られていることが知られた。このため、墳丘基底部および周溝は検出されなかった。墳頂部においては、1・3・4トレンチの墳頂部中央で主体部と思われる土坑状遺構を検出した。2トレンチでは、断面「U」字状の溝状遺構（幅1m、深さ20cm）を確認した。土坑状遺構は、東西方位をとるものと南北方位をとる2基が確認された。3・4トレンチで確認した土坑状遺構は、幅約2.5mを測り主軸は東西を示す。一部掘り下げたところ、深さ60cmを測る逆台形状の断面をとることが判明した。この土坑の底部より、赤彩を施した土師器高杯が出土した。この土坑の西端はトレンチ外に伸びている。土坑の東端は、1トレンチで検出した方向を異にする土坑状遺構と切り合っている。この土坑状遺構は、トレンチ西側において約5mに渡って確認できた。土坑の埋土より若干の須恵器・土師器の出土をみた。これらの土坑状遺構は、検出した位置や埋土の状況からみて埋葬施設の性格をもつものと考えられる。2トレンチの溝状遺構については、現段階では不明である。



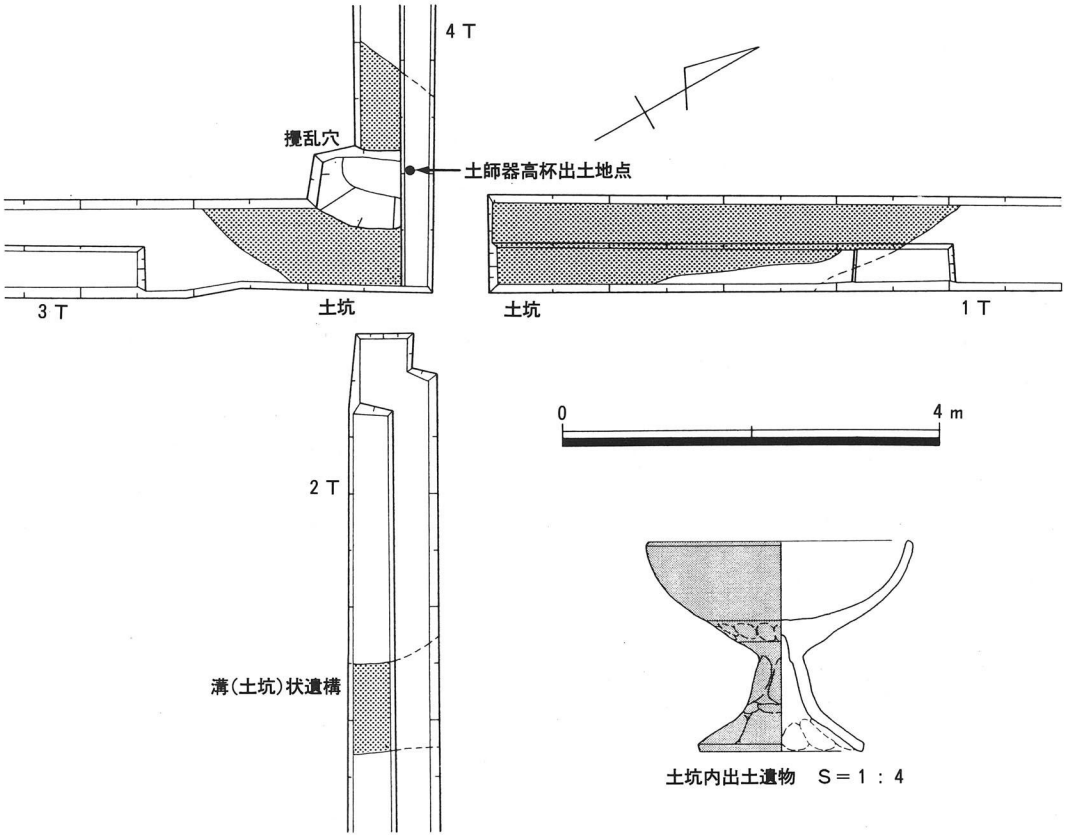
B地区トレンチ配置図

5～7トレンチ

久能寺27号墳より続く小丘陵上の水田面に設定したトレンチ。水田面は階段状に4面連続し、上段部分より5～7トレンチが位置する。各段では、何れも開墾時の削平と盛土が行なわれており、トレンチ内より遺構・遺物の検出はなかった。

8・15トレンチ

小丘陵の最下段部分に設定したトレンチ。15トレンチは、8トレンチ内での遺構の検出に伴い、南側に平行して設置した。両トレンチにおいては、耕作土、盛土、旧表土の堆積がみられた。旧表

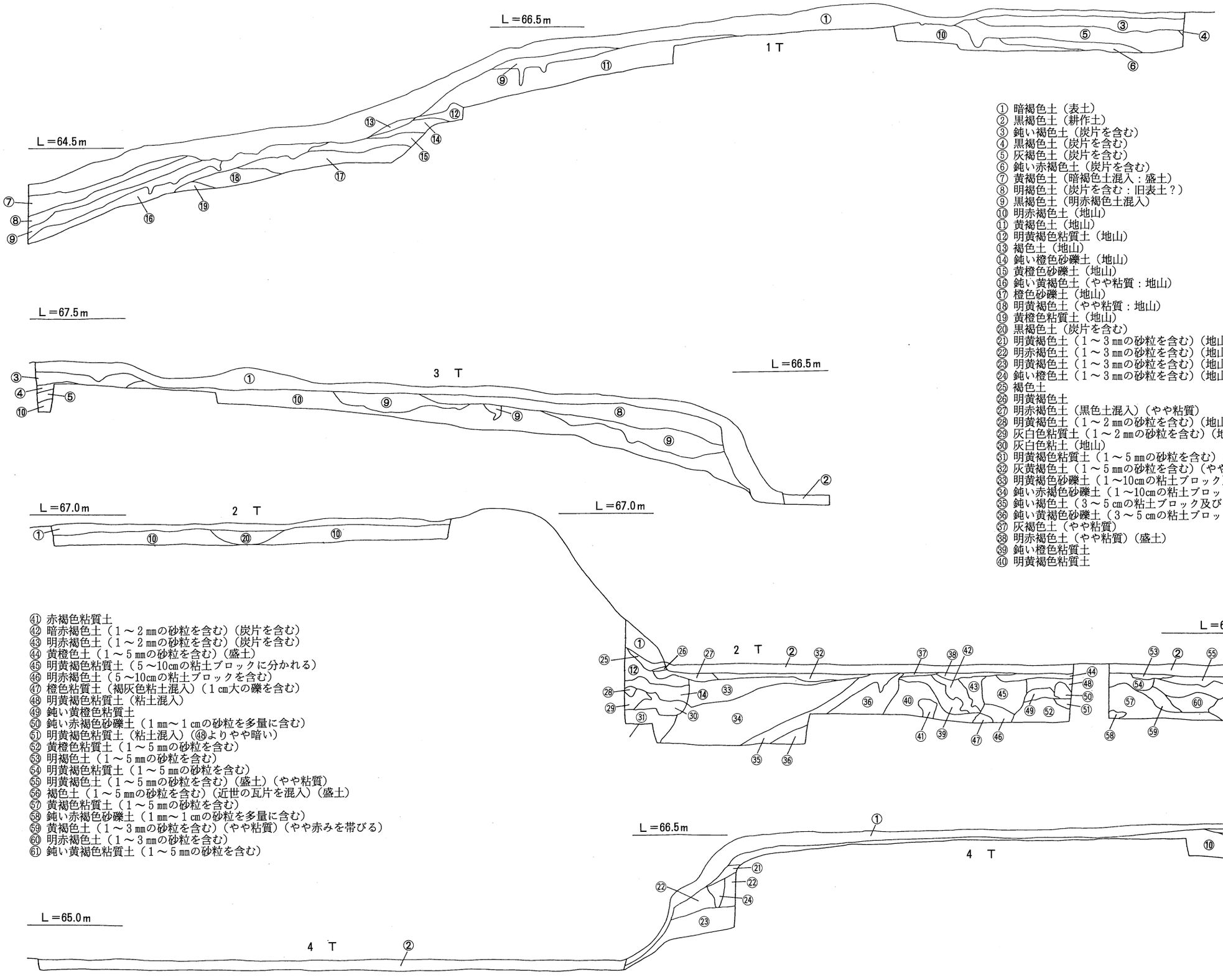


1～4トレンチ実測図

土下20cmで溝状遺構を検出した。溝状遺構は、幅1.1～1.3mを測り、主軸方位は南北を示す。溝状遺構は、両トレンチを横断し南北に連続するものと思われる。溝状遺構の埋土は、黒褐色を呈しやや粘質である。深さは約20cmであり、底面より列状に連なるピット群を検出した。ピットは、長軸約70cm、短軸約40cmを測る不整な楕円形を呈していた。ピットの短軸方向は溝状遺構の主軸方位とほぼ一致する。ピットは両トレンチ内で6個の検出をみた。溝状遺構の埋土中より、若干の土師器・須恵器片の出土をみたが、時期を特定するには到らなかった。

9～14トレンチ

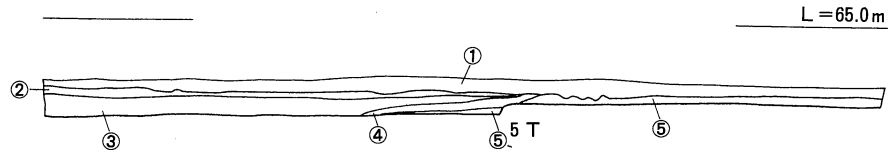
小丘陵西側の谷部に連続する水田面に設定したトレンチ。水田面は8段から成るが、トレンチは上段の2段を除く各段に設定した。各トレンチは、基本的に耕作土、盛土、旧表土、何層にも堆積する黒褐色系粘質土である。この内、盛土中より瓦片・窯道具等の出土をみた。しかし、旧表土およびその下層の黒褐色粘質土においては遺構・遺物の検出はみられなかった。調査区近辺は粘土地帯として知られ、近代初期における瓦窯の所在が指摘されており、盛土中の出土遺物は窯跡の存在を裏付けるものである。



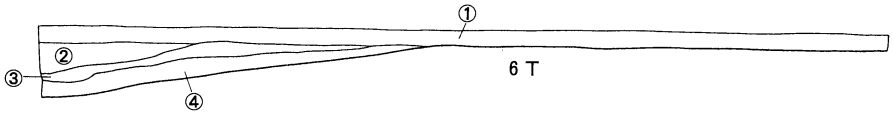
① 暗褐色土（表土）
② 黒褐色土（耕作土）
③ 鈍い褐色土（炭片を含む）
④ 黒褐色土（炭片を含む）
⑤ 灰褐色土（炭片を含む）
⑥ 鈍い赤褐色土（炭片を含む）
⑦ 黄褐色土（暗褐色土混入：盛土）
⑧ 明褐色土（炭片を含む：旧表土？）
⑨ 黒褐色土（明赤褐色土混入）
⑩ 明赤褐色土（地山）
⑪ 黄褐色土（地山）
⑫ 明黄褐色粘質土（地山）
⑬ 褐色土（地山）
⑭ 鈍い橙色砂礫土（地山）
⑮ 黄橙色砂礫土（地山）
⑯ 鈍い黄褐色土（やや粘質：地山）
⑰ 橙色砂礫土（地山）
⑱ 明黄褐色土（やや粘質：地山）
⑲ 黄橙色粘質土（地山）
⑳ 黒褐色土（炭片を含む）
㉑ 明黄褐色土（１～３㎜の砂粒を含む）（地山）
㉒ 明赤褐色土（１～３㎜の砂粒を含む）（地山）
㉓ 明黄褐色土（１～３㎜の砂粒を含む）（地山）
㉔ 鈍い橙色土（１～３㎜の砂粒を含む）（地山）
㉕ 褐色土
㉖ 明黄褐色土
㉗ 明赤褐色土（黒色土混入）（やや粘質）
㉘ 明黄褐色土（１～２㎜の砂粒を含む）（地山）
㉙ 灰白色粘質土（１～２㎜の砂粒を含む）（地山）
㉚ 灰白色粘土（地山）
㉛ 明黄褐色粘質土（１～５㎜の砂粒を含む）（地山）
㉜ 灰黄褐色土（１～５㎜の砂粒を含む）（やや粘質）
㉝ 明黄褐色砂礫土（１～10㎝の粘土ブロック及び１～５㎜の砂粒を含む）（やや粘質）
㉞ 鈍い赤褐色砂礫土（１～10㎝の粘土ブロック及び１～５㎜の砂粒を含む）（やや粘質）
㉟ 鈍い褐色土（３～５㎝の粘土ブロック及び１～５㎜の砂粒を含む）（やや粘質）
㊱ 鈍い黄褐色砂礫土（３～５㎝の粘土ブロック及び１～５㎜の砂粒を含む）（やや粘質）
㊲ 灰褐色土（やや粘質）
㊳ 明赤褐色土（やや粘質）（盛土）
㊴ 鈍い橙色粘質土
㊵ 明黄褐色粘質土
㊶ 赤褐色粘質土
㊷ 暗赤褐色土（１～２㎜の砂粒を含む）（炭片を含む）
㊸ 明赤褐色土（１～２㎜の砂粒を含む）（炭片を含む）
㊹ 黄橙色土（１～５㎜の砂粒を含む）（盛土）
㊺ 明黄褐色粘質土（５～10㎝の粘土ブロックに分かれる）
㊻ 明赤褐色土（５～10㎝の粘土ブロックを含む）
㊼ 橙色粘質土（褐灰色粘土混入）（１㎝大の礫を含む）
㊽ 明黄褐色粘質土（粘土混入）
㊾ 鈍い黄橙色粘質土
㊿ 鈍い赤褐色砂礫土（１㎜～１㎝の砂粒を多量に含む）
(51) 明黄褐色粘質土（粘土混入）（㊽よりやや暗い）
(52) 黄橙色粘質土（１～５㎜の砂粒を含む）
(53) 明褐色土（１～５㎜の砂粒を含む）
(54) 明黄褐色粘質土（１～５㎜の砂粒を含む）
(55) 明黄褐色土（１～５㎜の砂粒を含む）（盛土）（やや粘質）
(56) 褐色土（１～５㎜の砂粒を含む）（近世の瓦片を混入）（盛土）
(57) 黄褐色粘質土（１～５㎜の砂粒を含む）
(58) 鈍い赤褐色砂礫土（１㎜～１㎝の砂粒を多量に含む）
(59) 黄褐色土（１～３㎜の砂粒を含む）（やや粘質）（やや赤みを帯びる）
(60) 明赤褐色土（１～３㎜の砂粒を含む）
(61) 鈍い黄褐色粘質土（１～５㎜の砂粒を含む）

1 ～ 4 トレンチ断面図

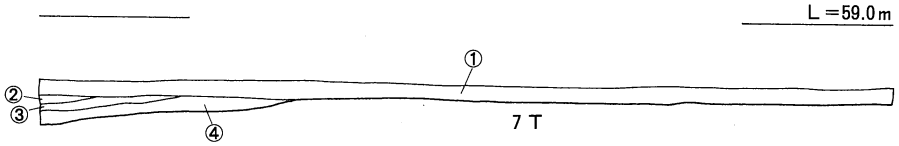
0 4m

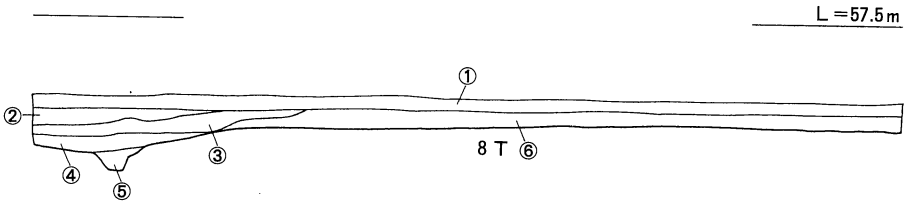


① 褐色土（耕作土）
② 暗褐色（盛土）
③ 鈍い黄褐色土（砂粒をふくむ：地山）
④ 褐色土（砂粒を含む：地山）
⑤ 明黄褐色土（砂粒を含む：地山）

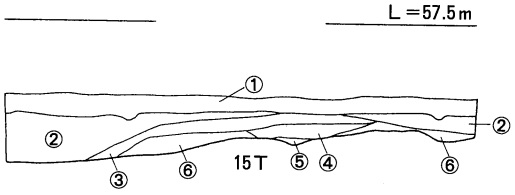


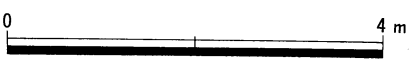
① 黒褐色土（耕作土）
② 明黄褐色土（盛土）
③ 暗褐色土（旧表土）
④ 黒褐色土



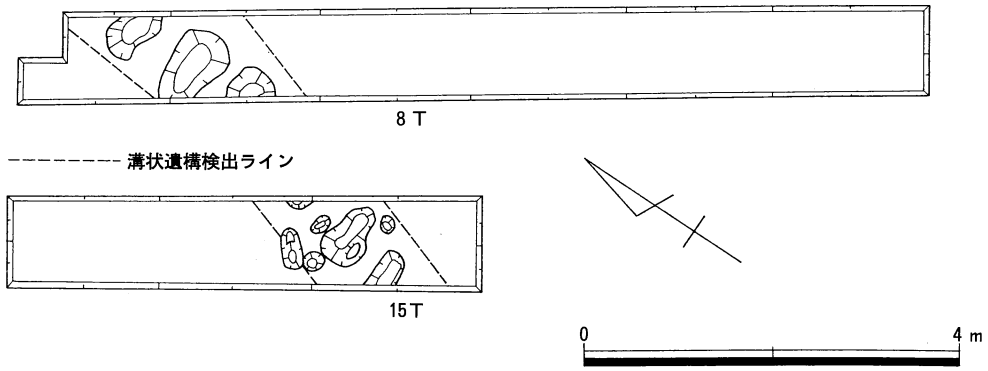


8・15T共通
① 黒褐色土（耕作土）
② 明黄褐色土（盛土）
③ 暗褐色土
④ 黒褐色土
⑤ 暗褐色土（砂粒を含む）
⑥ 黄褐色土（地山）

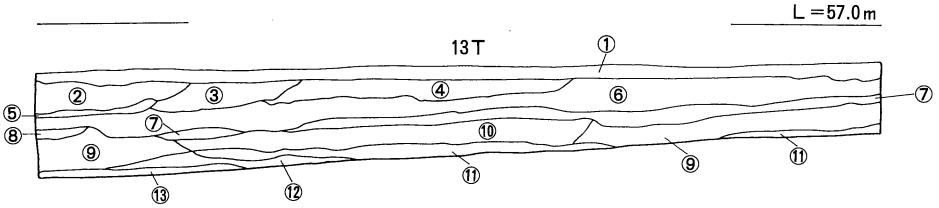




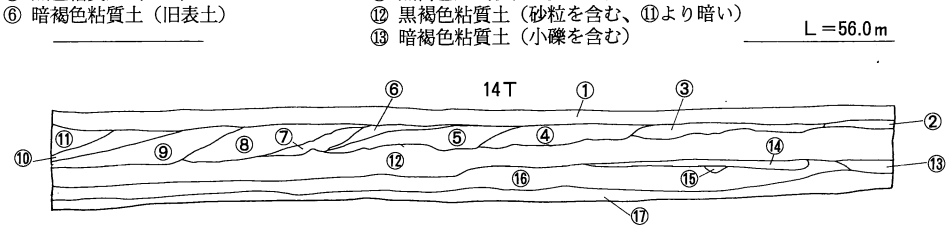
5～8・15トレンチ断面図



8・15トレンチ遺構検出状態図



① 黒褐色土（耕作土）
② 鈍い黄橙色土（黒色土塊を含む：盛土）
③ 褐灰色土（黒色土塊を含む：盛土）
④ 暗褐色土（盛土）
⑤ 黒色粘質土（盛土）
⑥ 暗褐色粘質土（旧表土）
⑦ 暗褐色土（小礫を含む）
⑧ 暗オリーブ褐色粘質土
⑨ 黒褐色粘質土（砂粒を多量に含む）
⑩ 黒褐色粘質土（⑨より明るい）
⑪ 黒褐色土（砂粒を多量に含む、⑨⑩より暗い）
⑫ 黒褐色粘質土（砂粒を含む、⑪より暗い）
⑬ 暗褐色粘質土（小礫を含む）

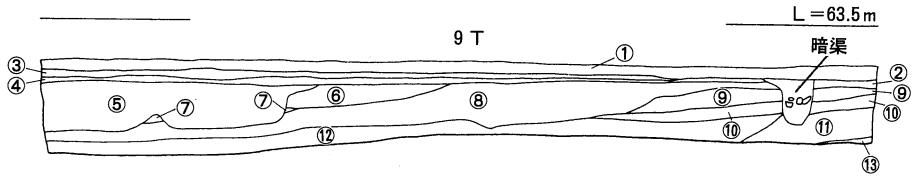


① 黒褐色土（耕作土）
② 黄褐色粘質土
③ 黄褐色土（1㎜～5㎝大の砂礫を含む：盛土）
④ 黄褐色土（1㎜～5㎝大の砂礫及黒褐色土塊を含む：盛土）
⑤ 黒褐色粘質土（盛土）
⑥ 黄褐色土（1㎜～5㎝大の砂礫を含む：盛土）
⑦ 黒褐色粘質土（盛土）
⑧ 黄褐色土（1㎜～5㎝大の砂礫を含む：盛土）
⑨ 黒褐色粘質土（盛土）
⑩ 明灰黄色土（1㎜～3㎝大の砂礫を含む：盛土）
⑪ 黒褐色粘質土（盛土）
⑫ 黒褐色粘質土（砂粒を含む：旧表土）
⑬ 暗オリーブ褐色粘質土（砂粒を含む）
⑭ 浅黄色土（砂粒を多量に含む）
⑮ 暗褐色土（砂粒を多量に含む）
⑯ 暗褐色粘質土（砂粒を含む）
⑰ 暗褐色粘質土（1㎜～1㎝大の砂礫を含む：⑯より暗い）

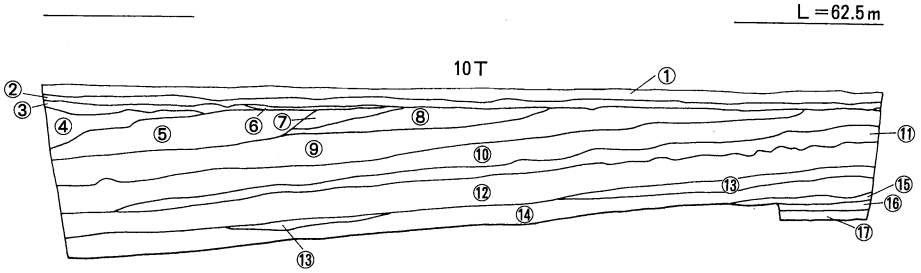
13・14トレンチ断面図

16・17トレンチ

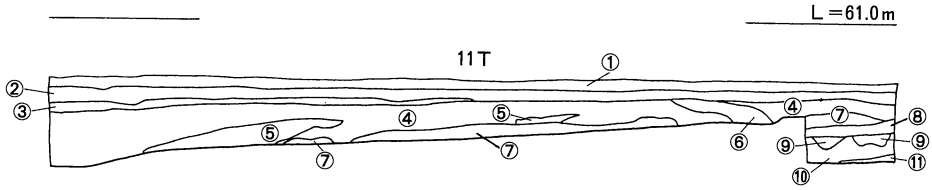
調査地南西端の丘陵裾部に設定したトレンチ。トレンチは、階段状を呈した水田面の下段の2段に設定した。表土下30㎝で地山面に達する。遺構・遺物の検出はみられなかった。



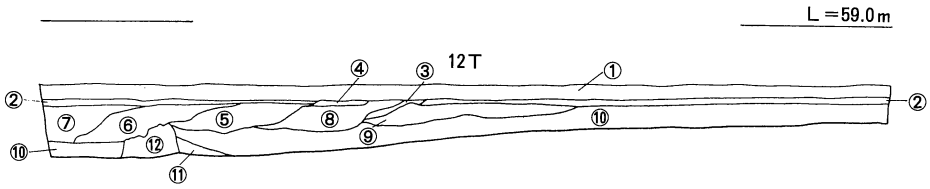
① 黒褐色土（耕作土）
② 黄褐色土（小礫を多量に含む）
③ 鈍い黄褐色土
④ 黄褐色土
⑤ 明黄褐色土（1～10cm大の礫を多量に含む、瓦片混入：盛土）
⑥ 鈍い黄橙色土（小礫を多量に含む、瓦片混入：盛土）
⑦ 暗褐色粘質土
⑧ 暗褐色粘質土（⑦より明るい：旧表土）
⑨ 暗褐色土（1～5㎜の砂粒を含む）
⑩ 黒褐色土（黄褐色粘質土塊を含む）
⑪ 暗褐色土（小礫を含む）
⑫ 褐灰色粘質土（黄褐色粘質土塊を含む）
⑬ 黒色粘質土（砂粒を含む）



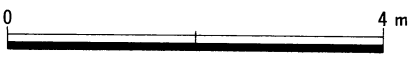
① 黒褐色土（耕作土）
② 黄褐色粘質土
③ 褐色土（盛土）
④ 鈍い黄褐色土（5㎝大の黒色土塊を含む：盛土）
⑤ 暗褐色土（5㎝大の黒色土塊を多量に含む：盛土）
⑥ 明黄褐色粘質土
⑦ 鈍い黄褐色土（砂粒を含む）
⑧ 褐色土
⑨ 暗褐色粘質土（旧表土）
⑩ 黒褐色粘質土
⑪ 暗赤褐色土（5～10cm大の礫を含む）
⑫ 黒色粘質土（砂粒を含む）
⑬ 黒色土（3～5㎝の礫を含む）
⑭ 黒色土（砂粒及小礫を多量に含む）
⑮ 暗褐色土（砂粒及小礫を多量に含む）
⑯ 鈍い黄褐色土（5～10cm大の礫を多量に含む）
⑰ 鈍い黄褐色土（2～5㎝大の礫を含む）



① 黒褐色土（耕作土）
② 褐灰色粘質土
③ 鈍い黄橙色粘質土（盛土）
④ 明黄褐色土（盛土）
⑤ 灰黄褐色粘質土（盛土）
⑥ 黄褐色粘質土（盛土）
⑦ 灰黄褐色粘質土（旧表土）
⑧ 黒褐色粘質土
⑨ 灰黄褐色粘質土（砂粒を含む）
⑩ 暗褐色粘質土
⑪ 黒色粘質土



① 黒褐色土（耕作土）
② 黄褐色土
③ 黄褐色粘質土（黒色土塊を含む：盛土）
④ 黒褐色粘質土（黒色土塊を含む：盛土）
⑤ 灰黄色土（黒色土塊を含む：盛土）
⑥ 褐色粘質土（盛土）
⑦ 暗褐色粘質土（黒色土塊を含む：盛土）
⑧ 明黄褐色粘質土（盛土）
⑨ 暗褐色粘質土（盛土）
⑩ 灰黄褐色粘質土（旧表土）
⑪ 黒褐色粘土
⑫ 木　根



9～12トレンチ断面図

5．郡家澤田山遺跡、久能寺御建山遺跡試掘調査のまとめ

今回の試掘調査の結果、郡家澤田山遺跡（A地区）において、弥生時代後期の溝状遺構と古墳時代後期の古墳を確認した。久能寺御建山遺跡（B地区）では、久能寺27号墳の主体部の一部と小丘陵の最下段面で溝状遺構を検出した。

郡家澤田山遺跡（A地区）

調査した各トレンチの土層断面観察により、旧地形はゆるやかな傾斜をもつ丘陵地であることが知られた。弥生時代後期の溝状遺構は、丘陵地の南側縁辺部に位置していた。この溝状遺構の性格は、その可能性として、弥生時代後期にみられる集落範囲を区画するための環濠が考えられた。このため、丘陵地の北側縁辺部にトレンチを設けたが、これに対応する遺構を確認するには到らなかった。溝状遺構より出土した遺物は僅かである。その中でも、甕口縁部片は、弥生時代後期の特徴を示す。この土器の編年観としては、鳥取県東部を代表する弥生時代～古墳時代の複合遺跡である岩吉遺跡におけるⅡ新～Ⅲ古期に平行するものと思われる。他のトレンチで出土した他の弥生土器も、ほぼこの時期に所属するとみてよい。

丘陵中央部では古墳1基が検出されたが、墳丘は既に削平され周溝のみの確認であった。周溝は、水田造成工事により一部を欠くが直径12.5m（周溝外縁で18m）を測る円墳である。墳丘は削平され、丘陵北側斜面に盛土されていたが、この盛土中より多数の埴輪片が出土しており本来は墳丘に囲繞されていたものと考えられる。埴輪は、円筒埴輪と考えられるが何れも小片で、図化できたものは10点余であった。一部の埴輪片には、基部に円形透しを有するものや赤彩を施したものがみられ、他では余り例をみないものである。また、朝顔型埴輪の口縁部から頸部にかけての部分の出土もみられ、外面には赤彩を施す。これらの他、外面の一部に斜格子文が施された埴輪片の出土をみた。埴輪片の一部に剥離面があることから鰭付円筒埴輪の鰭部分と思われる。

久能寺御建山遺跡（B地区）

久能寺27号墳は、現況観察によれば方墳状を呈していたが、トレンチ調査の結果、墳裾部は水田耕作に伴い掘削されていた。このため、本来の墳裾部や周溝は既に失われていることが判明した。墳頂部においては、2基の土坑状遺構と溝状遺構を確認した。土坑状遺構は、一部掘り下げを行った所、その断面は逆台形状を呈し底部には赤彩を施した土師器高杯が検出された。この土坑状遺構は、わずかな調査範囲のため断定は出来ないが、埋葬施設の性格をもつものと考えられる。出土した土器の特徴は6世紀後半代としておきたい。

小丘陵の最下段面で確認したピット群を伴う溝状遺構は、その性格は現段階では不明である。しかし、埋土中より須恵器・土師器が出土しており、古墳時代後期に所属する遺構であると考えられる。

このように、今回の調査で以上の所見が得られ、試掘調査としての初期の目的は十分に達せられたものと考えられる。今後の当該地の発掘調査により、新たに多くの資料の追加が考えられ、より詳細が判明するものと思われる。

試掘トレンチ一覧表（郡家澤田山遺跡・久能寺建山遺跡）

地区	トレンチ番号	トレンチ規模（長さ×幅）単位m	検出した遺構	出土遺物
郡家澤田山遺跡（A地区）	4トレンチ	9.5×1	————	————
	5トレンチ	9.5×1	————	————
	9トレンチ	8×1	古墳周溝	埴輪
	10トレンチ	8×1	古墳周溝・溝状遺構	弥生土器
	12トレンチ	9.5×1	土坑1	須恵器
	13トレンチ	9.5×1	————	弥生土器・土師器・須恵器
	14トレンチ	9.5×1	————	————
	15トレンチ	9.5×1	古墳周溝	土師器
	16トレンチ	9.5×1	古墳周溝	土師器・須恵器
	17トレンチ	9.5×1+3×2	————	弥生土器・土師器・須恵器・埴輪
	18トレンチ	9.5×1	————	土師器 ————
	20トレンチ	9.5×1	————	————
	21トレンチ	9.5×1	古墳周溝	土師器・石器片
	22トレンチ	5×1	古墳周溝	土器細片
	23トレンチ	7×1	古墳周溝	土師器・埴輪
	24トレンチ	6×1	————	————
	25トレンチ	9.5×1	土坑2	————
	26トレンチ	13×1	————	弥生土器・土師器・須恵器・埴輪・石材
久能寺建山遺跡（B地区）	1トレンチ	19.5×1	土坑1	土師器・須恵器
	2トレンチ	10.6×1+6.6×1	溝（土坑）状遺構1	————
	3トレンチ	12.6×1	土坑1	須恵器
	4トレンチ	22.2×1	土坑1	土師器
	5トレンチ	9×1	————	————
	6トレンチ	9×1	————	————
	7トレンチ	9×1	————	————
	8トレンチ	9.5×1	溝状遺構1・ピット	土師器・須恵器
	9トレンチ	9×1	————	————
	10トレンチ	9×1	————	————
	11トレンチ	9×1	————	————
	12トレンチ	9×1	————	————
	13トレンチ	9×1	————	————
	14トレンチ	9×1	————	————
	15トレンチ	5×1	溝状遺構1・ピット	土師器・須恵器
	16トレンチ	9.2×1	————	————
	17トレンチ	9.2×1	————	————

参 考 文 献

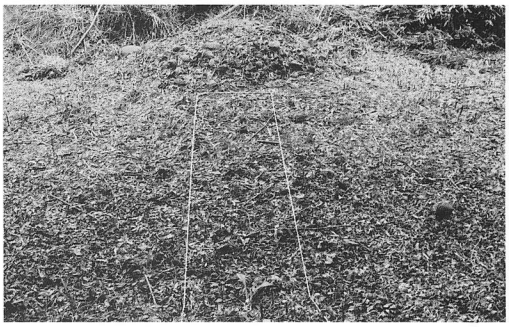
谷口恭子他　『岩吉遺跡Ⅲ』　鳥取市教育委員会　1991

田辺　昭三　『須恵器大成』　角川書店　1981

清水　真一　「因幡・伯耆地域」『弥生土器の様式と編年』　山陽・山陰編　木耳社　1992

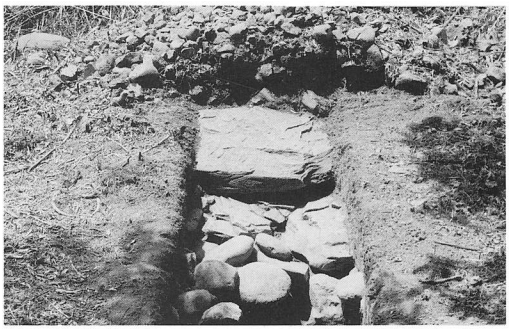
中原 斉 他　『里仁古墳群』　鳥取県教育文化財団　1985

調査地遠景（南東より）

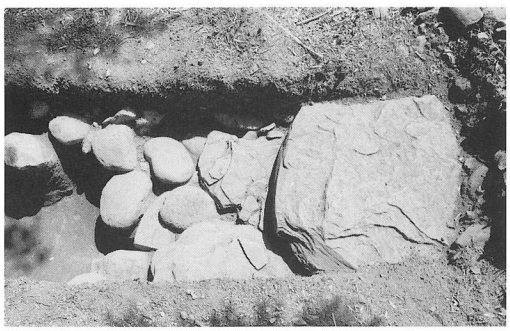


福本71号墳調査前全景（北より）

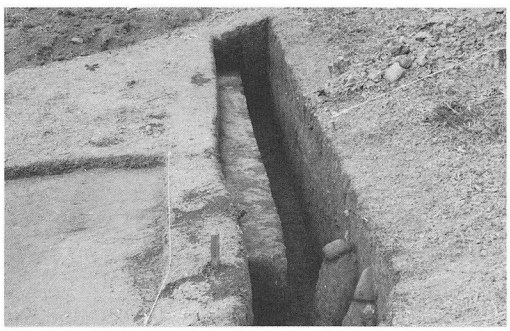
福本71号墳調査前全景（東より）



1 T、福本71号墳石室検出状態(北より)

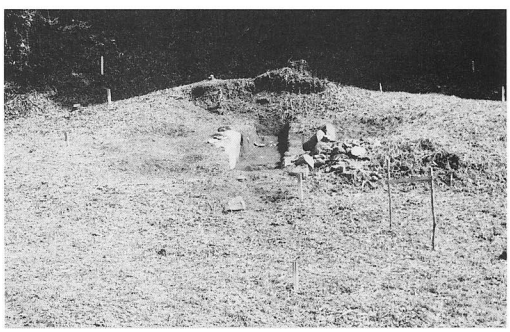


1 T、福本71号墳石室検出状態(西より)

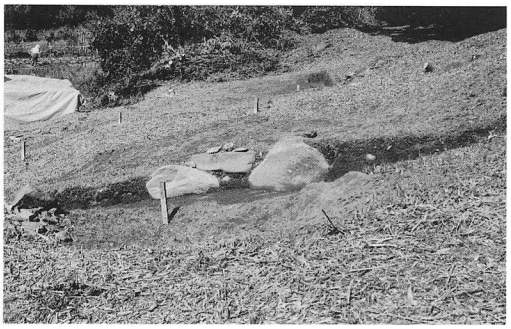


2 T、西側完掘状態（東より）

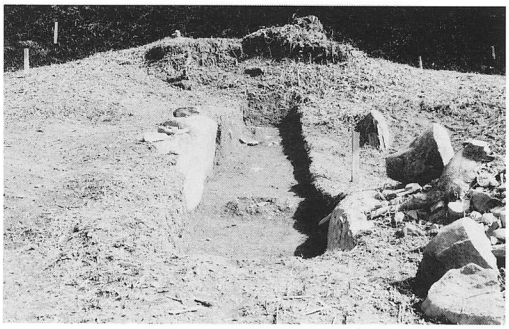
福本70号墳調査前全景（東より）



福本70号墳全景（南より）



3 T、福本70号墳石室検出状態(東より)



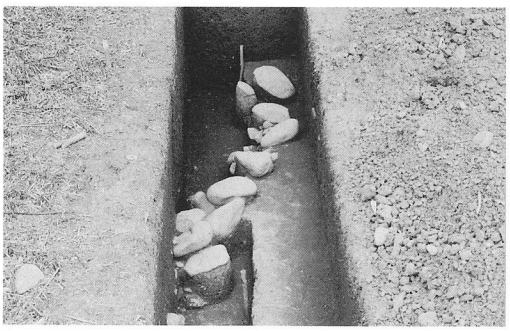
3 T、福本70号墳石室検出状態(南より)

3 T、福本70号墳周溝検出状態(西より)

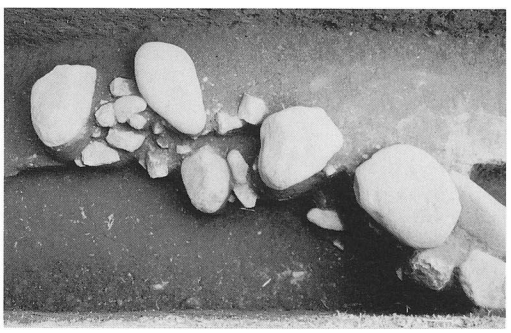
4 T、石列検出状態 (北より)

4 T、石列検出状態 (東より)

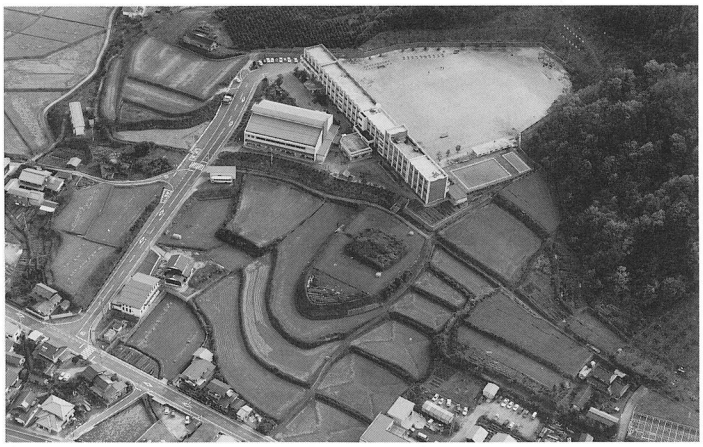
5・6 T、調査前全景 (西より)



6 T、石列検出状態 (西より)

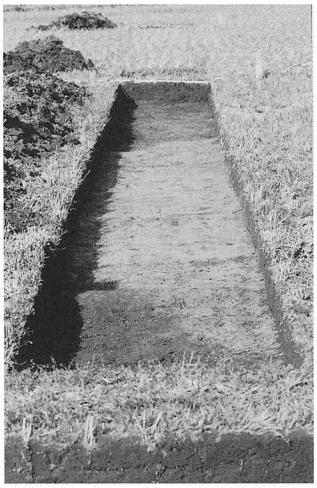


6 T、石列検出状態 (北より)



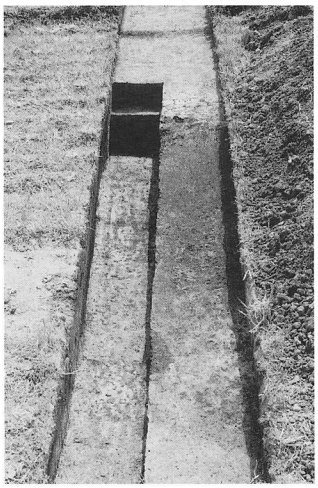
A・B地区遠景（西より）

A地区15T、周溝検出状態(南より)

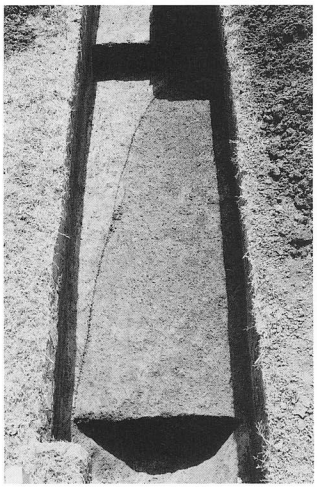


A地区16T、周溝検出状態(南より)

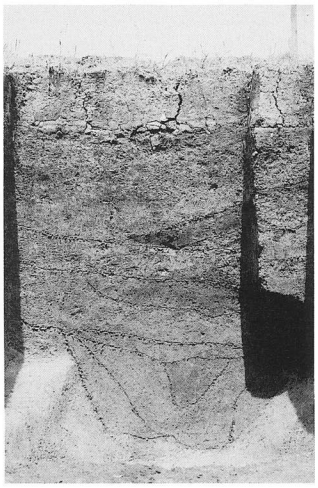
A地区23T、周溝検出状態(南より)



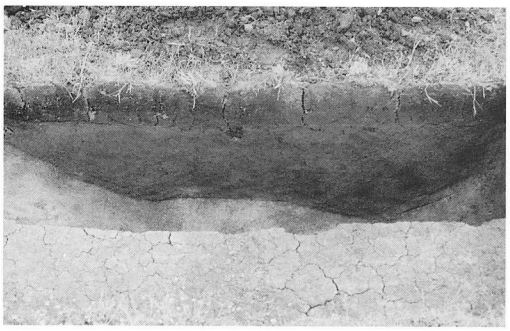
A地区23T、完掘状態(北より)



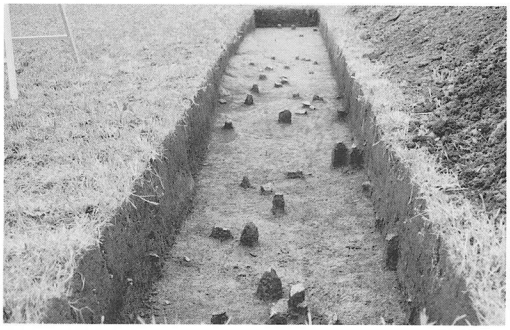
A地区10T、溝状遺構検出状態(西より)



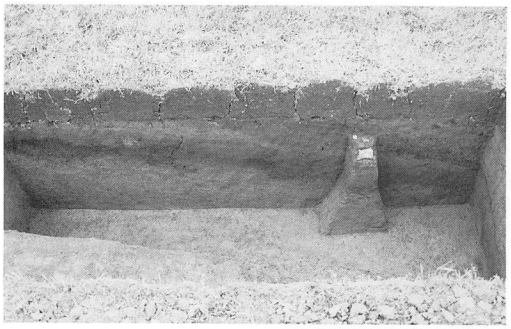
A地区10T、溝状遺構断面検出状態(南より)



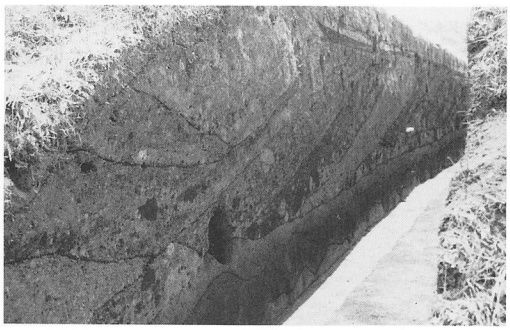
A地区22T、周溝検出状態（西より）



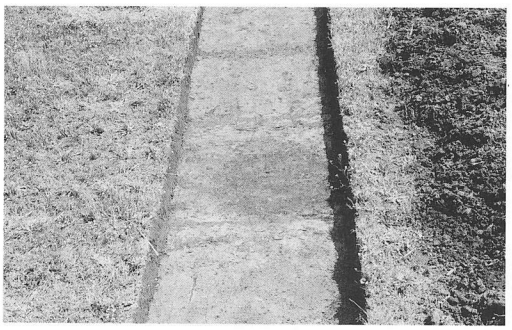
A地区17T、遺物出土状態（北より）



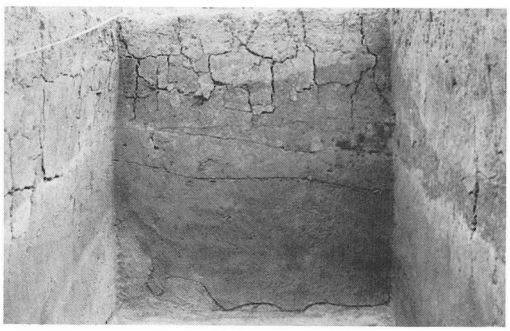
A地区18T、南側完掘状態（西より）



A地区26T、完掘状態（北より）



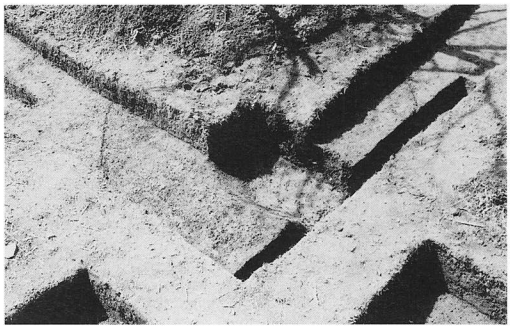
A地区12T、土坑検出状態（西より）



A地区13T、完掘状態（東より）

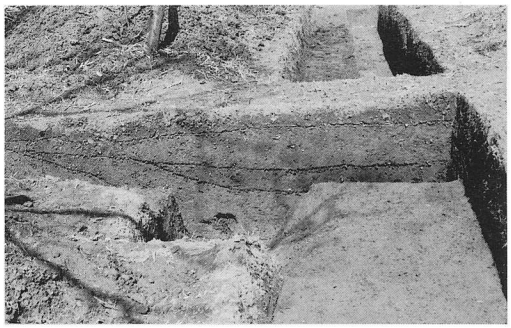
B地区久能寺27号墳全景（東より）

B地区１T、土坑検出状態(南西より)

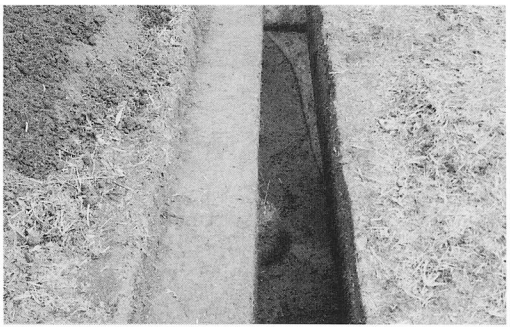


B地区3・4T、土坑検出状態(東より)

B地区4T、土坑底部遺物出土状態(北東より)



B地区4T、土坑断面検出状態(南西より)

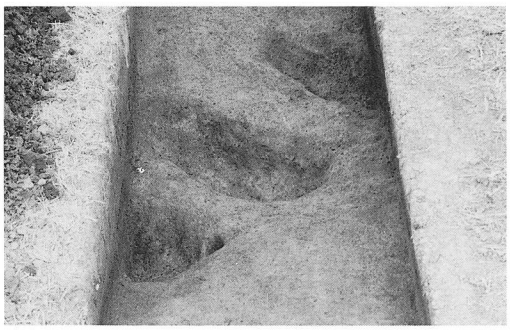


B地区1T、土坑掘り下げ状態(南西より)

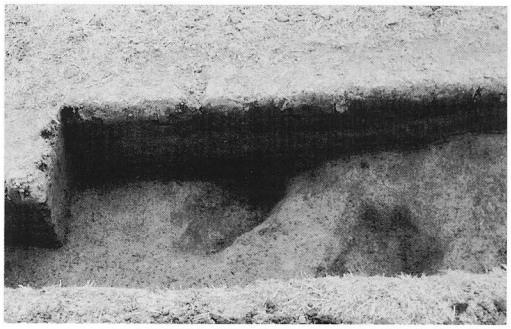
B地区2T、断面検出状態(南西より)

B地区2T、溝(土坑)状遺構検出状態(南西より)

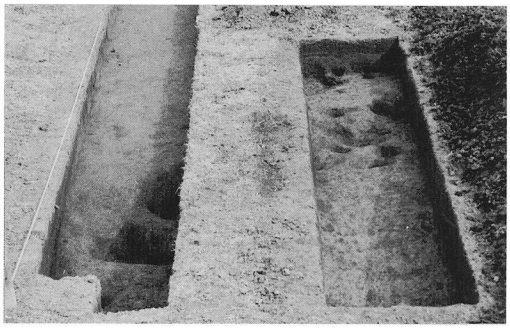
B地区8T、ピット群検出状態(南東より)



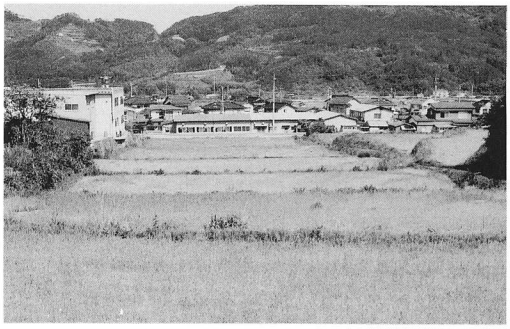
B地区8T、ピット群完掘状態(南東より)



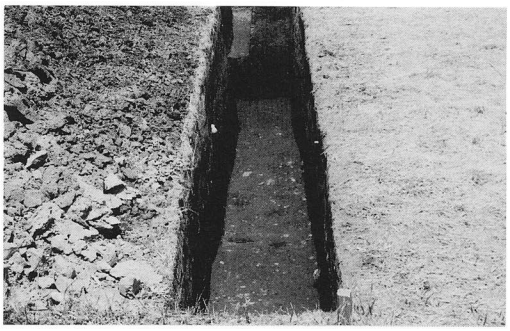
B地区8 T、断面検出状態（南西より）



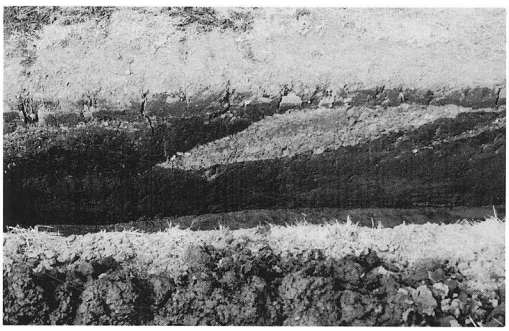
B地区8・15T、遺構検出状態(北西より)



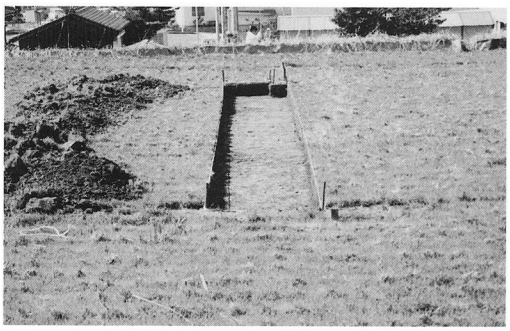
B地区谷部遠景（南東より）



B地区10T、完掘状態（南東より）



B地区14T、断面検出状態（南西より）



B地区16T、完掘状態（南東より）

郡家町文化財報告書 17

郡家町内遺跡発掘調査概要報告書

福本70・71号墳
郡家澤田山遺跡
久能寺御建山遺跡

発行　1995. 3
発行者　郡家町教育委員会
鳥取県八頭郡郡家町郡家77番地
TEL (0857) 76－0001
印刷　日ノ丸印刷株式会社